

# 日本消防



- 第23回消防団幹部候補中央特別研修(男性・女性)を開催
- 第76回日本消防協会定例表彰式

- 絵 令和5年度 第23回消防団幹部候補中央特別研修(男性の部)  
令和5年度 第23回消防団幹部候補中央特別研修(女性の部)

巻頭言 「消防団の充実強化に向けて」	(公財)茨城県消防協会 会長 葉梨 衛	1
日消の動き 海外でも、大型災害いろいろ	(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文	3
東西南北 (青森県) 「末永く住みよい町であり続けるように」	外ヶ浜町消防団 団長 石岡 博英	4
東西南北 (静岡県) 「市民と身近に寄り添う消防団」	湖西市消防団 団長 尾崎 俊也	6
東西南北 (鳥取県) 「地域と消防団の未来のために」	倉吉市消防団 団長 中本 博丈	8
シンフォニー (和歌山県) 「なぜ私は男性社会の消防団に入団したのか? ~今の私があるのは~」	紀の川市消防団 女性分団 分団長 地村 美貴	10
第23回消防団幹部候補中央特別研修を開催	(公財)日本消防協会	12
第76回日本消防協会定例表彰式	(公財)日本消防協会	14
講演 「能登半島地震とコミュニティの役割」を開催	(公財)日本消防協会	29
日本消防協会定時理事会・評議員会 全日本消防人共済会臨時総代会を開催	(公財)日本消防協会・(生協)全日本消防人共済会	30
都道府県消防協会事務局長会議の開催と第30回全国消防操法大会の抽選会を実施	(公財)日本消防協会	31
消防育英会定時理事会を開催	(公財)消防育英会	32
消防団協力事業所表示証の価格改定について	(公財)日本消防協会	33
消防団加入促進への取組み 消防団の意義と多様な活動について	秋田県 (一財)秋田県消防協会	34
消防団加入促進への取組み 量と質、どちらも妥協しない多数精鋭消防団が守る街	東京都 目黒消防団	36
消防団加入促進への取組み 長崎市消防団加入促進チームの活動について	長崎県 長崎市消防団	38
外出先で地震にあったら	総務省消防庁 防災課	40
令和6年度消防防災科学技術賞の作品募集	総務省消防庁 消防研究センター	42
うちの団のPR 「自分たちのまちは自分たちで守る、安全・安心の紀の川市を目指して」	和歌山県 紀の川市消防団	43
うちの名物団員	青森県、茨城県、静岡県、和歌山県、鳥取県	44
消防団の広場(栃木県) 「多年齢層のコミュニティの場として」	川那須烏山市消防団 団長 大橋 昭一	46

編集後記

## 表紙写真説明

### 「龍飛崎」(青森県外ヶ浜町)

青森県津軽半島の最北端に位置する岬。津軽国定公園の一部として認定されており、海風を感じながら津軽海峡を一望できます。

夏には色とりどりの紫陽花が咲き、情緒あふれる景色が広がります。

写真提供者：青森県外ヶ浜町

# 令和5年度 第23回消防団幹部候補 中央特別研修(男性の部)

令和6年1月31日(水)～2月2日(金)

(12頁～13頁に掲載)





# 令和5年度 第23回消防団幹部候補 中央特別研修(女性の部)

令和6年2月14日(水)～2月16日(金)

(12頁～13頁に掲載)



## 消防団の充実強化に向けて

(公財)茨城県消防協会 会長 葉梨 衛



### 1 茨城県の紹介

本県は、関東地方の北東部に位置し、東京からおよそ35～160km圏と近接しています。東京圏に近接しているながら、全国4位の可住地面積を有し、気候も温和で自然災害が少ない暮らしやすい環境などが広く周知され、近年、東京圏からの転入者が増加しています。

本県の産業は、広大で肥沃な農地、豊かな海、首都圏に位置する地理的優位性などを背景に、優れた農林水産物が豊富に生産されており、農業産出額が全国3位(令和2年)、水産物の漁獲量が全国2位(令和2年)のほか、産出額が全国1位～3位の農産物が26品目(令和2年)に上るなど、「食材の宝庫」として日本の食料マーケットを支えています。

また、工場立地では、工場立地件数及び県外企業立地件数が全国1位(令和2年)で、過去10年をみても、立地面積が1,125ヘクタール、県外企業立地件数が307件と、他県を大きく引き離して全国1位となっています。

一方で、本県は、日本三名瀑の一つである「袋田の滝」や万葉集にも歌われる「筑波山」など豊かな自然景観にも恵まれています。東日本で唯一今に伝わる「常陸国風土記」や、水戸藩による「大日本史」編さん事業、日本遺産に認定された藩校「弘道館」、日本三名園の一つ「偕楽園」など長い歴史と文化を有するほか、近年では、「国営ひたち海浜公園」のネモフィラ・コキアや、世界最大の青銅製立像「牛久大仏」の景観などが国内外から高く評価されています。

さらに、海岸線を活かしたサーフィンなどのマリンスポーツや、高さ100mの「竜神大吊橋のバンジージャンプ」、ナショナルサイクルルートに指定された「つくば霞ヶ浦りんりんロード」、日本一の施設数を誇る「キャンプ」などのアクティビティも充実しています。

機会がありましたら、是非、本県を訪れて、こうした魅力を感じていただければ幸いです。

### 2 当協会の概要

公益財団法人茨城県消防協会は、昭和14年発足の茨城県警防会議の後を引き継ぐ形で、昭和22年に財団法人茨城県消防協会の設立認可を受け、昭和63年から基本財産を造成し(3.18億円)、平成23年に公益財団法人として認可され、現在に至っています。

当協会は、代表理事以下理事30名、評議員37名、監事3名で構成され、令和5年4月現在、44消防団20,303人の消防団員、24消防本部(局)4,571人の消防職員が会員となっています。

### 3 当協会の事業

当協会の主な事業は、①「消防防災技術の向上及び消防団組織の強化」、②「消防職・団員の士気の高揚と組織の強化」、③「地域連携の強化及び消防防災思想の普及広報活動」からなります。

①では、消防ポンプ操法大会や、消防救助技術大会、消防団長研修会、消防団員指導員研修会、女性消防団員活性化大会、支部別消

防団長等懇談会、理事研修会などの開催のほか、全国消防操法大会や、全国女性消防団員活性化大会、日本消防協会主催研修事業などに出場・参加しています。②では、消防殉職者慰霊祭や消防大会、消防関係者叙勲・褒章等受章祝賀会の開催のほか、退職団長・団員への報償、健康増進事業などを実施しています。③では、地域交流活動促進事業や県内消防団体への助成、機関誌の発行、新聞・ラジオ広報等を実施しています。

それ以外にも、弔慰金・障害見舞金の贈呈や、各種共済事業等の事務処理に当たっています。

#### 4 消防団員の確保対策

本県の消防団は、44消防団1,022分団からなり、全国と同様、団員数は20,303人と減少傾向にあり、この10年間で約3,600人、15%程減少しています。

こうした中、近年は、台風や記録的な大雨による豪雨災害が全国各地で発生しています。

昨年は、本県でも、6月の梅雨前線と台風2号に伴う大雨により、取手市で大規模な内水氾濫などが発生したほか、9月には、線状降水帯による大雨により、日立・高萩・北茨城市など県北地域で甚大な浸水被害や土砂崩れが発生し、多くの消防団員が警戒活動や避難誘導、被災者救出などに当たりました。

消防団員は、災害や火災から住民の生命・身体・財産を守るため、日夜献身的に活動されていますが、災害が激甚化・頻発化の傾向にあることや、今後発生が懸念される首都直下地震などを考えると、地域防災の要となる消防団の団員確保は喫緊の課題と言えます。

この対策として、当協会では、県と連携し、基本団員の確保に加え、女性団員や機能別団員の確保・育成を支援しています。全国に先駆けて結成に取り組んだ女性消防団は、現在、43消防団、団員数553人を数え、平時の応急手当の普及啓発や、火災予防、防災教育、災

害時の後方支援などに従事しているほか、全国・県女性団員活性化大会や地域の交流研修事業などに積極的に参加し研鑽を重ねるなど、誠に心強く感じています。

また、大規模災害団員を含む機能別団員は、これまでに18消防団、団員数638人と順調に増えており、当協会でも、令和5年度からの改正中長期運営計画において、機能別団員制度導入を促進し、全市町村に導入することを、新たな目標に掲げたところです。

今後は、県と一体となって、消防団協力事業所表示制度や消防団応援の店の普及促進のほか、新たな消防団PR事業や、準中型免許取得費の市町村助成制度の導入促進などにも積極的に取り組み、若者などの団員確保の促進に努めてまいります。

#### 5 消防団の充実強化に向けて

昨年は、コロナ禍以降、4年振りとなる「消防ポンプ操法地区大会」と共に、5年毎の「自治体消防制度75周年記念中央大会兼県代表選考会」を開催することができました。県内6地区の優勝チームが出場した中央大会では、見事な操法が披露され、その技術の高さを再認識しました。

消防ポンプ操法大会については、様々な意見がありますが、消防団員にとって、操法技術の習得・向上は、火災の防御や自身の安全確保に必ず役立つものでありますので、操法訓練の重要性や必要性については、繰り返し説いていかなければならないと考えています。

最後に、消防団を取り巻く環境は、一層厳しさを増していますが、今後とも、消防団の更なる充実強化に向け、関係機関と連携しながら、団員確保をはじめ、団員の処遇改善や資機材の整備促進などに取り組み、会長としての責務をしっかりと果たしてまいります。

# 海外でも、大型災害いろいろ

(公財)日本消防協会 会長 秋本敏文

正月早々の能登半島地震など、我が国は、特に近年さまざまなこれまでと様相が異なる災害が発生しており、やっぱり災害列島かなという感じが出ているのでしょうか。しかし、海外でもいろいろな災害が発生しています。1755年のポルトガル、リスボンで発生した大地震は、ポルトガルの運命を変え、ヨーロッパ全体のあり方にも影響を与えました。

最近は、地球環境の変化のもと、異常な高温と乾燥状態のなかでの山火事があり、反対に大雨による大洪水もあります。これは、アメリカ、フランス、イギリスなど各国で見られます。そして、山火事対策などについて、各国ともいろいろ苦心して取り組んでいます。

実は、私は消防庁長官に就任した頃、山火事消火用の比較的小型の飛行艇をカナダから売込みをかけられたことがあります。カナダは湖を活用しているだろうが日本は海なので、波に強い飛行艇でなければならないと思って、勿論お金もなかったのですが、お断りをしたことがあります。その後、アメリカの各州のなかでカリフォルニア州が直属の消防部隊を保有していることを聞き、機会を見つけて訪問し、実態を調べてみたことがあります。その頃の実態は、3,800人の隊員、50機の航空機、100台の重機を保有し、専用の航空基地をもっているということで、その主な活動は山火事対策だということでした。カリフォルニアは日本と異なり大平原が多いですから、重機を使用した防火帯づくりに重点を置いているなという印象でした。

今、海外諸国の消防も、さまざまな大規模災害と闘っています。その実態がどうなのか、どのような課題があるのかといったことは、我が国消防のこれからのあり方を考えるうえでも参考になるのではないかと思います。それは、自然災害だけでなく、パリのノートルダム大聖堂火災のような火災への対応についても装備その他参考になることがあり得るかと思います。

多くの方々のご協力を頂いて建設を進めている新しい日本消防会館は、いろいろな面で日本消防の益々の発展に貢献するように運営しなければならないと思いながら、完成後の運営について皆さんのご意見を頂きながら検討していますが、今回申しあげましたような海外諸国の災害の状況、各国消防の対応状況等についても情報交流をする機会を設けたらどうかと考えています。ただ、やらなければならないことがいろいろありますので、実現までにはちょっと時間がかかります。

実は平成20年(2008年)に、日本で、世界初の「消防団国際会議」を開催したことがあります。今度は、世界に例がない消防の総合的中核拠点といえる新会館での国際会議ということで、海外諸国も関心をもってくれるのではないのでしょうか。





## 「末永く住みよい 町であり続けるように」



外ヶ浜町消防団 団長 石岡 博英

### 1 青森県外ヶ浜町の紹介

外ヶ浜町は青森県の北部、津軽半島の北東部に位置し、平成17年3月に蟹田町、平館村、三厩村が合併して誕生しました。

風光明媚な景観と、固有の伝統文化が存在する情緒豊かな土地です。また、海から吹く「東風(やませ)」という強風が大きな特徴であり、かの太宰治氏が小説「津軽」にて言及されたように、「風の町」としても知られています。

令和3年7月には蟹田地区にある「大平山元遺跡」が北海道・北東北の縄文遺跡群として世界遺産に登録されました。大平山元遺跡から出土された土器は、縄文時代のものとしては最も古いものの一つです。

また、三厩地区にある龍飛崎は当町を代表する観光地であり、澄んだ海原に心地よい風が吹く、雄大な自然をご覧いただけます。龍飛崎周辺には青函トンネル記念館や、全国で唯一の「階段国道」が存在します。

農業や漁業も盛んであり、海と山と川の恵みとともに生きる町です。

### 2 外ヶ浜町消防団の紹介

外ヶ浜町消防団は、外ヶ浜町の構成町村にあたる蟹田町消防団、平館村消防団、三厩村消防団が合併して発足した消防団です。現在は蟹田全11分団、平館全8分団、三厩全5分団の計24分団により構成されており、車両は消防司令広報車1台、本

団車1台、消防ポンプ車3台、小型動力ポンプ付き積載車24台を配備しています。団員の条例定数は350名ですが現在の団員数は284名であり、減少傾向にあります。団員の確保のため、勧誘や報酬の見直しなど、積極的な活動を行っています。

### 3 消防団の活動

はじめに外ヶ浜町消防団の定期活動をご紹介します。年度始めである4月は、新年度最初の活動である火災予防運動を行います。火災予防週間の開始日には各地区で消防車のパレードによる注意喚起を行い、火災予防週間中は各分団がパトロールを行います。また、秋の火災予防週間の際にも同様にパレード及びパトロールを行い、町全体に防火を呼びかけます。

毎年6月頃には定期観閲式があり、姿勢・服装と機械・器具の点検を行います。また、分列行進や操法訓練を実施し、日頃の訓練の成果を発揮します。ここ数年はコロナ禍にあり観閲式を開催できずにいましたが、令和5年度は4年ぶりに行うことができ、改めて日頃の訓練の重要性を再認識することができました。

10月には常備消防、警察及び近隣市町村の消防団と協同で山岳遭難救助訓練を行います。青森県は山が多く、山菜採りが盛んな土地柄であることから、山岳遭難の発生は少なくありません。山岳遭難





観閲式、ポンプ操法の様子



山岳遭難救助訓練の様子

が発生した際に然るべき対応ができるよう、遭難者の適切な背負い方や、ロープを用いた移動用簡易ベッドの組み立て方等を学びます。

翌年1月には外ヶ浜町長をはじめ、教育長、総務課長をお招きし、蟹田八幡宮にて無火災祈願を行い、その年の無事を願います。これは、消防団だけでなく町全体が一丸となって防災に取り組もうとする姿勢の表れでもあります。

このような、防火・防災を目標とした取組を定期活動としながら、外ヶ浜町消防団は有事の際には火災だけでなく様々な災害に対して出動します。

令和4年に東日本を襲った大雨災害の際には、増水した川がはん濫し、多くの住宅が濁流に吞まれました。また、水が引いたあとは住宅内に大量の砂泥が滞留しており、瓦礫等も含め、その撤去には

膨大な時間を要しました。その際には、被災地区復旧のため、役場や自衛隊、ボランティアの皆様と協力し、長期間に渡り出動しました。地域の安全を一番に考え、外ヶ浜町が末永く住みよい町であり続けるよう、今後も消防活動に取り組んで参ります。

#### 4 おわりに

災害は頻発化・激甚化の兆候を見せており、異常気象による影響や被害はもはや予測すら困難になっています。いつ何が起こるか分からない時代の中で、地域住民が安心して暮らしていくことができるよう、防火・防災運動を徹底して参りたいと思います。

また、実出動の際にはその被害が最小限となるよう尽力し、そのための訓練及び点検を欠かさず行うよう努力いたします。



## 「市民と身近に寄り添う 消防団」



湖西市消防団 団長 尾崎 俊也

### 1 はじめに

湖西市は面積86.56km<sup>2</sup>、人口58,230人（令和5年3月31日現在）で、静岡県の最西端、愛知県との境に位置し、緑豊かな湖西連峰、はるか水平線をのぞむ太平洋、美しい水をたたえた浜名湖に囲まれた、自然豊かで温暖な気候の美しいまちです。特に、浜名湖は釣りやボートなどのマリンスポーツが楽しめる場所として知られています。

本州のほぼ中央に位置するという立地



新居関所



豊田佐吉翁生家

条件に恵まれ、全国で唯一現存する関所建物の新居関所、昔の町並みが残る白須賀宿からも分かるとおり、古くから交通・輸送の要所として栄え、現在も人・物・情報が盛んに往来しています。また、湖西市は、自動車メーカー大手のトヨタグループの創始者『豊田佐吉翁』が生誕した場所でもあり、生家や納屋は記念館として一般公開されています。

### 2 湖西市消防団の紹介

湖西市消防団は、昭和47年の市制施行とともに発足し、平成22年の市町合併により新居町消防団と統合し、現在に至ります。1本部、3方面隊14分団（内女性分団含む）で構成し、定数387名で組織され、令和5年10月1日現在352名で活動しています。装備は、消防団指令車1台、消防ポンプ自動車10台、救助資機材搭載車3台、可搬運搬車11台、可搬積載車1台、資機材運搬車1台を配備しています。

### 3 湖西市消防団の活動

湖西市消防団では、火災、水災害等の災害対応はもちろんのこと、消防出初式や入退団式の各種式典行事のほか、平時では月に1度、月例訓練を実施し、火災防御、震災対策、応急救護など多種多様な災害に対応できるよう訓練を重ねています。

また、防火啓発や消防団員確保の取り組みとして、近年では消防フェスタを消防本部と協力開催しております。市民が身近な存在として消防業務に触れることで、防火・防災意識を高め、消防業務に対する理解を深めることを目的として実施しており、今年度も非常に多くの市民に参加いただきました。団員のご家族にも参加いただき、消防団業務にご理解をいただけるいい機会であったとも感じております。参加していただいた子どもたちは、消防団員や消防職員と接することで、消防の役割や重要性を学ぶだけでなく、将来の職業人としてのロールモデルを見つけるきっかけになったのではないかと思います。次年度以降も開催し、市民と身近に寄り添える消防団であるようアピールしていきたいと考えています。

#### 4 おわりに

地域防災の要とも言える消防団員の減少が進んでいる昨今ですが、当消防団でも消防団員の減少や高齢化などの問題を抱えております。地域防災力を維持していくために、時代に即した消防団組織体制を構築し、魅力ある消防団となるよう



消防フェスタの様子①



消防フェスタの様子②

処遇改善策を打ち出して消防団員の確保に繋げていきたいと思ひます。

また、我々の住む湖西市では、今後予想される南海トラフを震源とする地震が、いつ発生してもおかしくない状況にある中で、消防団員に対する地域住民の期待はますます大きくなっていると感じております。この期待に応えるためにも、震災対応訓練を積極的に行ひ、救助資機材を熟知し、新しい技術を身に付け、有事の際には湖西市消防団員が地域住民に寄り添いながら、リーダー的存在として活動できるよう、役割を果たしていきたくて考えています。





# 「地域と消防団の 未来のために」



倉吉市消防団 団長 中本 博丈

## 1 倉吉市の紹介

倉吉市は鳥取県の中央に位置しており、人口は約44,000人、市の面積は272.15km<sup>2</sup>です。西部や南部は大山から続く丘陵地帯、東部は三朝、はわい、東郷の温泉地に囲まれており、市街地は南北に向かって流れる天神川を中心とした盆地に形成されています。平成17年には市南部に位置する旧東伯郡関金町を編入合併し、現在の倉吉市となりました。市の中心には国の重要伝統的建造物群保存地区に登録されている「打吹玉川」があり、江戸時代から昭和前期にかけて建築された白壁土蔵が連なっています。他にも桜の名所である打吹公園や、山陰を代表する名湯「白金（しろがね）の湯」と呼ばれる関金温泉など、豊かな自然と歴史を味わうことができます。



白壁土蔵群

## 2 倉吉市消防団の紹介

前述した関金町との編入合併に伴い消防組織も統合され、現在は本部および17分団（女性分団含む）で構成されており、令和5年12月1日時点で、454名（条例定数500名）が所属しています。

主な装備として、小型ポンプ積載車計14台、多機能型消防車計6台、また、関金町の地理的条件（中山間地域、消防署との距離が遠い）を考慮し、関金町内4分団に消防ポンプ車各1台、計4台を配備し、日々地域の安心安全を守っています。

## 3 倉吉市消防団の活動

有事の際の出動はもとより、年間を通して各種広報活動や各種訓練を実施しています。

火災予防広報においては、毎月15日に全分団が消防車両によるパトロールを行うとともに、春秋の火災予防運動週間には、常備消防と協力し消防車両で市内を一周する火災予防パレードを行い、全市一斉に火災予防を呼びかけています。

また、市内小学校の防災学習として、小学生を対象とした多機能型消防車の見学や装備品の試着体験を実施したり、市内大学の消防防災サー

クルに所属する大学生と消防団員の交流会を実施したりと、入団促進活動と併せて、多くの方に消防団を身近に感じていただけるよう広報を行っています。

訓練においては、分団間の連携強化、地域の理解に資するため、市内全域を4地区（東部地区・中部地区・西部地区・関金地区）に分け、地区単位でその地域の特性に応じて行う地区団訓練や、鳥取県中部に設置されている各市町消防団および常備消防が一同に連携して行う実働訓練等を毎年実施しています。

他にも、年度当初には規律訓練や装備資機材の取扱訓練、出水期前には土のう作成やボートの取扱方法を学ぶ水防訓練、定期的な普通救命講習など、様々な訓練及び研修への参加を通して団員の技能向上を図っています。

近年の新たな取組みとしましては、団員の負担軽減や福利厚生充実の施策を検討するため「倉吉市消防団あり方検討委員会」を設置しました。現在は新規団員確保及び現団員の団活動の負担軽減のため、各種行事や訓練内容の見直しを進めているところです。

## 4 おわりに

新型コロナウイルス感染症の位置づけが令和5年5月に「5類感染症」となったことに伴い、ようやく倉吉市消防団として本格的に活動を再開することができ、とても喜ばしく思います。



大学生との交流会風景



地区団訓練風景

そうして消防団としての活動が再始動する一方で、人口減少や少子高齢化、雇用形態の変化などが重なり、団員一人ひとりにかかる負担は以前よりも大きく、これからも大きくなり続けることが予想されます。

消防団が「地域防災の要」としてあり続けるためには、団員の負担軽減と地域住民の理解促進が不可欠です。時代に合った消防団を目指し、消防団活動の見直しを行うとともに、火災予防広報や啓発活動により一層注力し、永きにわたり地域の安心安全を守り、住民の期待に応えられる組織づくりに邁進いたします。



## シンフォニー（和歌山県） 「なぜ私は男性社会の消防団に入団したのか？～今の私があるのは～」

紀の川市消防団 女性分団 分団長 地村 美貴

私が住む和歌山県紀の川市は2005年の11月に5つの町が合併した和歌山県の北部に位置する市です。そんな紀の川市の消防団女性分団が結成されるまでの私の思いや、現在の活動の様子をお話させていただきます。

私は2013年に、夫が入団していた紀の川市消防団那賀地域の分団長から入団の声をかけていただき、不安な気持ちもありましたが、「今の世の中、男性にできて女性にできないことはない！」という想いから入団を決意しました。

入団後は防災・消防訓練などに参加し、ある程度の基本動作は習得したつもりでした。そんなある日、近所でサイレンが鳴りました。「火事？ どうしよ…私が行って何ができるん？」と思い現場に行くことができませんでした。私は「何のために消防団に入団したんやろ？」と、簡単な気持ちで入団したことが恥ずかしくなり、退団するつもりで分団長に相談しました。

すると分団長は私に、「火を消すことだけが消防団員の仕事と違うんやで。有事に備えて訓練し、地域の人を知り、だれがどこでどんな風に暮らしているかを知るだけでもいざという時、役に立つことがある。そんな時、消防団員として、女性だからこそ役に立つことが絶対あるか

ら。」と、消防団員を続けることに再度背中を押してくれました。

それ以降私は、「女性団員だからこそできることはないか。」と考えながら、訓練などに参加し活動していました。そんなある日、全国の消防団活動を見てきた当時の紀の川市消防団長と事務局が「女性分団を結成し、女性ならではの活動をしてほしい！」と、声をかけてくれました。まさに自分自身が今後の活動について悩んでいたのも、本当に嬉しかったことを最近のように覚えています。

そして女性分団結成に向け団員を募集するため、女性が集まる会議などで勧誘したり、ホームページや広報でも募集したりしました。勧誘に行った際は、「火事とか無理！ 家族を置いて怖いことなんかできない！」など、なかなかいい返事がもらえませんでした。そのような中でも徐々に入団希望の連絡をいただけるようになり、2016年11月6日に女性消防団員入団式/女性分団結成式を、実施することができました。入団してくれた団員は、「とにかく人を助けたい」と、熱い気持ちが溢れていました。そして「女性の私たちが消防団員としてできることは？」と会議で話し合った結果、私一人では思いつかなかった、様々な意見がでました。



- ・子供達に防災について、大切なことを伝えたい
- ・地域の方とふれあいながら、啓発活動がしたい
- ・手話を学び、必要な方たちの力になりたい

このような思いから、楽しみながら得意なことを発揮し活動しよう、という事で、以下のチーム(担当)分けをし、いくつか掛け持ちする形での活動を開始しました。

- ① 応急手当普及員チーム…地域の方たちに、救命について基本的なことを学んでいただき、命の大切さを知っていただきたい。
- ② ダンスチーム…防災について子供達にわかりやすいよう、言葉や振り付けでふれあうことで学んでいただきたい。
- ③ 紙芝居チーム…火事や地震などについて、子ども会や学童保育などで紙芝居を披露し、火の怖さや地震時の逃げ方などを学んでいただきたい。
- ④ 手話チーム…手話技術を習得し、地域防災や災害時などに役立てたい。
- ⑤ 広報…活動を地域の方や地方の女性消防団員の方に知っていただくため、女性分団新聞の発行、紀の川市消防団公式インスタグラムを開設し、活動紹介を行っている。
- ⑥ 会計…各チーム活動や研修で必要な費用などの管理を行っている。

ところが各チーム活動目途がついてきた頃、新型コロナウイルスの感染が拡大し、活動縮小を余儀なくされました。ほとんどの活動ができなくなりましたが、私たちはできる活動をしながら、気持ちを温めてきました。



救命講習を実施する女性分団



講師として会議に出席

新型コロナウイルスが2類から5類感染症になり活動が再開すると、多方面から講師派遣依頼があったり、女性消防団研修が行われたりと活動が盛んになりました。

その他にも私たちは、「女性やのに消防団?」と言われない活動をするため、火災現場などに第一陣として駆けつけることはなくても、地域で何かあったときに最低限、消防団員としてできるように、消火器使用訓練や、消火栓にホースをつなぎ放水する訓練を行っています。

男性社会といわれていた消防団ですが、それは過去の話です。「女性だって消防団員として地域の皆さんの役に立てるんだ!」と、今なら胸を張って言えます。今後も団員一丸となり、女性分団だからこそできる活動を行い、地域に貢献したいと思います。

# 第23回消防団幹部候補中央特別研修を開催

(公財)日本消防協会

(公財)日本消防協会は、第23回消防団幹部候補中央特別研修として、男性消防団員の部は、1月31日(水)から2月2日(金)、女性消防団員の部は、2月14日(水)から2月16日(金)、各部3日間開催しました。

この研修は、将来消防団の幹部として活躍が期待される団員を対象に実施するもので、全国から総勢210名(男性消防団員の部125名、女性消防団員の部85名)が参加しました。

開講式では、日本消防協会秋本会長の挨拶後、研修生総代からの宣誓により研修が始まり、研修内容は、消防団の活動事例紹介、災害情報、危機管理などの講義や、女性消防団員の部では、江東区新木場の東京ヘリポート内にある東京消防庁航空隊を視察しました。

課題討議では各部5つのテーマを定め、班に分かれて各地での消防団活動や問題意識の共有などを討議し、研修最終日には討議してきた課題について発表を行いました。

研修者からは、「全国から集まった仲間との交流は大変刺激になりました。」「この研修で学んだ事をもう一度振り返り、地元で生かせるよう頑張っていきます。」などの感想が寄せられました。

男性消防団員の部



総代による宣誓

宣誓者：北海道南宗谷消防組合枝幸消防団 松本分団長

女性消防団員の部



総代による宣誓

宣誓者：京都府京都市伏見消防団 岡本分団長



研修風景



東京消防庁航空隊視察風景

## 第23回消防団幹部候補中央特別研修 講義科目

### 男性の部

内 容	講 師
講 話	日本消防協会 会長 秋本 敏文
消防団を中核とした地域防災力の充実強化	消防庁 国民保護・防災部 地域防災室長 志賀 真幸
気 象	東北大学 教授 西出 則武
防災と地域力	国土舘大学 防災救急救助総合研究所 教授 山崎 登
危機管理	Blog 防災・危機管理トレーニング 主宰 日野 宗門
活動事例	新潟県糸魚川市消防団 団長 斎藤 直文
課題討議発表・講評	消防庁 国民保護・防災部 地域防災室 課長補佐 塗師木 太一
課題討議テーマ ・理想の消防団と今後の活動について ・消防団内でのハラスメント対策について ・若い世代の消防団員を確保するための入団促進対策について ・気象情報を活用した豪雨災害への対応について ・消防団を中核とした地域防災力の充実強化対策について	

### 女性の部

内 容	講 師
講 話	日本消防協会 会長 秋本 敏文
消防団を中核とした地域防災力の充実強化	消防庁 国民保護・防災部 地域防災室長 志賀 真幸
女性消防団員の活動とこれからの課題	元東京消防庁丸の内消防署長 谷口 由美子
防災と地域力	国土舘大学 防災救急救助総合研究所 教授 山崎 登
視 察	東京消防庁航空隊(東京ヘリポート内)
在日米海軍消防隊で危機管理の違いに 目覚め学んだこと	一般社団法人リスクウォッチ 顧問 長谷川 祐子
課題討議発表・講評	消防庁 国民保護・防災部 地域防災室 消防団専門官 本島 鉄也
課題討議テーマ ・理想の消防団と今後の活動について ・消防団内でのハラスメント対策について ・若い世代の消防団員を確保するための入団促進対策について ・気象情報を活用した豪雨災害への対応について ・消防団を中核とした地域防災力の充実強化対策について	



課題討議の様子



# 第76回日本消防協会定例表彰式

(公財)日本消防協会

令和6年3月8日(金)午前10時30分から、ニッショーホール(東京都港区東新橋1-1-19)において、第76回日本消防協会定例表彰式を挙行政いたしました。

表彰式は、4年振りに多数の来賓をお招きし、人数制限なしでの挙行政となりました。

特別来賓は、長谷川淳二総務大臣政務官、原邦彰消防庁長官、全国消防長会吉田義実会長がご出席され、式典は、日本消防協会旗入場から始まり、続いて日本消防協会 水島三雄副会長の開式の辞、国歌斉唱、消防殉職者への黙祷、日本消防協会 秋本敏文会長の式辞と進み、特別表彰「まとい」、特別功労章の順に秋本会長から表彰状等が授与され、続いて、優良消防団(表彰旗)、優良消防団(竿頭綬)、功績章、精績章、勤続章、優良婦人消防隊(表彰旗)、優良婦人消防隊員(功績章)、永年勤続職員表彰の順に表彰が行われました。

全ての表彰授与ののち、来賓祝辞を長谷川淳二総務大臣政務官からいただき、その後、受賞者代表として高知県消防協会 市原泰会長が謝辞を行い、日本消防協会 沖山仁副会長の万歳三唱、日本消防協会 下山正彦副会長が閉式の辞を宣言し閉式しました。



## 式次第

- (1) 開式
- (2) 国歌斉唱
- (3) 消防殉職者に対する黙祷
- (4) 式辞
- (5) 表彰
  - ・ 特別表彰「まとい」…………… 10団
  - ・ 特別功労章 …………… 10名
  - ・ 優良消防団(表彰旗) …………… 35団
  - ・ 優良消防団(竿頭綬) …………… 90団
  - ・ 功績章 …………… 893名
  - ・ 精績章 …………… 2,146名
  - ・ 勤続章 …………… 9,659名
  - ・ 優良婦人消防隊(表彰旗) …………… 6隊
  - ・ 優良婦人消防隊員(功績章) …………… 7名
  - ・ 永年勤続職員表彰 …………… 9名
- (6) 祝辞
- (7) 受賞者代表謝辞
- (8) 万歳三唱
- (9) 閉会



日本消防協会旗入場



開式の辞 日本消防協会 水島三雄副会長



式辞 日本消防協会 秋本敏文会長



特別表彰「まとい」授与



特別功労章授与



表彰旗、竿頭綬、功績章、精績章、勤続章  
優良婦人消防隊表彰旗、優良婦人消防隊員功績章、  
永年勤続職員表彰授与

## 第76回 日本消防協会定例表彰名簿

### 特別表彰まとい

10団

都道府県名	消 防 団 名
青 森 県	階 上 町 消 防 団
福 島 県	鏡 石 町 消 防 団
神 奈 川 県	南 足 柄 市 消 防 団
千 葉 県	市 川 市 消 防 団
茨 城 県	常 陸 大 宮 市 消 防 団
石 川 県	内 灘 町 消 防 団
静 岡 県	長 泉 町 消 防 団
岡 山 県	真 庭 市 消 防 団
香 川 県	土 庄 町 消 防 団
宮 崎 県	高 千 穂 町 消 防 団

### 特別功労章

10名

都道府県名	役 職 名	氏 名
新潟県	新潟県消防協会会長 長岡市消防団 団長	鈴木 守
神奈川県	神奈川県消防協会会長 横浜市港北消防団 団長	飯田 孝彦
栃木県	栃木県消防協会会長 宇都宮市消防団 団長	古山 大功
富山県	富山県消防協会副会長 氷見市消防団 団長	西川 三郎
三重県	三重県消防協会会長 松阪市消防団 団長	山川 良樹
京都府	京都府消防協会副会長 京都市中京消防団 団長	上田 義昭
大阪府	大阪府消防協会会長 豊中市消防団 団長	田中 照浩
愛媛県	愛媛県消防協会会長 松山市消防団 団長	大西 浩司
高知県	高知県消防協会会長 大月町消防団 団長	市原 泰
鹿児島県	鹿児島県消防協会会長 鹿児島市消防団 団長	内大久保 清志

### 優良消防団(表彰旗)

35団

都道府県名	消 防 団 名
北海道	大雪消防組合東神楽消防団
青 森 県	弘 前 市 消 防 団
岩 手 県	普 代 村 消 防 団
宮 城 県	白 石 市 消 防 団
秋 田 県	大 潟 村 消 防 団
山 形 県	川 西 町 消 防 団
福 島 県	会 津 若 松 市 消 防 団
新 潟 県	上 越 市 消 防 団
東 京 都	四 谷 消 防 団
神 奈 川 県	海 老 名 市 消 防 団
埼 玉 県	吉 川 市 消 防 団
群 馬 県	嬬 恋 消 防 団
千 葉 県	富 里 市 消 防 団
茨 城 県	利 根 町 消 防 団
栃 木 県	日 光 市 栗 山 消 防 団
山 梨 県	甲 府 市 消 防 団
長 野 県	辰 野 町 消 防 団
石 川 県	宝 達 志 水 町 消 防 団
愛 知 県	名 古 屋 市 上 野 消 防 団
岐 阜 県	高 山 市 消 防 団
大 阪 府	堺 市 美 原 消 防 団
兵 庫 県	豊 岡 市 日 高 消 防 団
奈 良 県	安 堵 町 消 防 団
滋 賀 県	彦 根 市 消 防 団
和 歌 山 県	日 高 町 消 防 団
島 根 県	海 士 町 消 防 団
徳 島 県	神 山 町 消 防 団
香 川 県	善 通 寺 市 消 防 団
愛 媛 県	松 野 町 消 防 団
長 崎 県	諫 早 市 消 防 団
福 岡 県	小 竹 町 消 防 団
佐 賀 県	伊 万 里 市 消 防 団
熊 本 県	高 森 町 消 防 団
宮 崎 県	都 城 市 消 防 団
鹿 児 島 県	伊 佐 市 消 防 団



## 優良消防団(竿頭綬)

90団

都道府県名	消 防 団 名
北海道	胆振東部消防組合鶴川消防団
北海道	久慈市消防団
北海道	矢巾町消防団
北海道	西和賀町消防団
宮城県	富谷市消防団
宮城県	大崎市消防団
宮城県	東松島市消防団
秋田県	鹿角市消防団
秋田県	五城目町消防団
秋田県	東成瀬村消防団
山形県	河北町消防団
山形県	西川町消防団
福島県	鶴岡市消防団
福島県	大玉村消防団
福島県	鮫川村消防団
福島県	北塩原村消防団
新潟県	糸魚川市消防団
新潟県	妙高市消防団
新潟県	湯沢町消防団
東京都	練馬消防団
東京都	練馬消防団
東京都	日野市消防団
神奈川県	平塚市消防団
神奈川県	藤沢市消防団
神奈川県	藤座間市消防団
神奈川県	川口市消防団
埼玉県	加須市消防団
埼玉県	高片品村消防団
茨城県	鹿嶋市消防団
茨城県	那珂市消防団
茨城県	那珂市消防団
栃木県	高根沢町消防団
栃木県	益子町消防団
栃木県	那珂川町消防団
山梨県	笛吹市消防団
山梨県	鳴沢村消防団
長野県	茅野市消防団
長野県	木曾町消防団
長野県	中野市消防団
石川県	志賀町消防団
石川県	穴水町消防団
富山県	小矢部市消防団
富山県	入善町消防団
愛知県	名古屋市楠西消防団

都道府県名	消 防 団 名
愛知県	名古屋市中小田井消防団
愛知県	名古屋市八社消防団
愛知県	名古屋市上社消防団
静岡県	函南町消防団
岐阜県	安八町消防団
岐阜県	関ヶ原町消防団
岐阜県	岐阜市北消防団
京都府	京都市南消防団
京都府	京都市伏見消防団
大阪府	門真市消防団
大阪府	田尻町消防団
兵庫県	神戸市東灘消防団
兵庫県	神戸市須磨消防団
兵庫県	姫路市飾磨消防団
奈良県	天川村消防団
奈良県	香芝市消防団
滋賀県	大津市消防団
滋賀県	甲賀市消防団
和歌山県	有田市消防団
和歌山県	日高川町消防団
和歌山県	出雲市消防団
徳島県	阿波市消防団
徳島県	三好市三野町消防団
徳島県	三木町消防団
徳島県	三木町のう町消防団
愛媛県	西条市消防団
愛媛県	東温市消防団
愛媛県	内子町消防団
愛媛県	長崎町消防団
愛媛県	長崎町消防団
福岡県	西海市消防団
福岡県	波佐見町消防団
福岡県	春日市消防団
福岡県	行橋市消防団
福岡県	東峰村消防団
佐賀県	唐津市消防団
佐賀県	佐賀市消防団
佐賀県	佐賀市消防団
熊本県	熊本市消防団
熊本県	熊本市消防団
熊本県	水俣市消防団
熊本県	水俣市消防団
宮崎県	西米良村消防団
宮崎県	日南市消防団
鹿児島県	西之表市消防団
鹿児島県	龍郷町消防団
鹿児島県	龍郷町消防団

北海道

村井 廣 樹  
羽生 勝 利  
長谷 川 徹  
谷馬 昭 彦  
中西 邦 博  
平竹 光 宏  
中谷 直 樹  
東美 富 美  
渥山 義 男  
西山 義 秋  
見戸 義 正  
上鎖 英 雄  
鈴佐 藤 孝  
佐浦 坂 一  
浦鈴 木 則  
鈴砂 田 之  
三野 元 一  
小梅 勇 男  
稲沼 光 憲  
沼伊 欣 也  
澤本 政 孝  
本吉 秀 盛  
真後 嘉 男  
山大 誠 健  
森中 清 一  
坂高 堅 一  
橫木 靖 子

青 森

白川 仁  
坂本 進  
阿部 一  
仲野 二  
佐藤 浩  
北昌 哲  
伊柳 憲  
西村 晴  
坂本 真  
西館 重  
松志 義  
山下一 美  
澤谷 吾  
安田 悅  
中嶋 雄  
嶋島 明  
志喜

齊藤 日 出  
岩手 久 克  
阿部 友 稔  
熊谷 一 美  
川池 賀 正  
芳川 川 達  
荒川 林 幸  
小谷 幸 次  
熊松 山 男  
千佐 葉 明  
佐藤 上 雄  
三齊 藤 樹  
高橋 倉 司  
佐朝 合 一  
落谷 昌 夫  
新井 本 彦  
坂羽 沢 英  
橋本 嘉 英

宮 城

結城 由 夫  
加藤 哲 學  
萱賢 正 朗  
早渡 敏 一  
渡々 敏 哲  
佐鈴 木 哲  
高橋 子 俊  
金若 張 鈴  
齋藤 藤 友  
佐小 畑 信  
高袋 川 孝  
及藤 藤 作  
遠藤 瀨 祐  
岩寺 野 幾  
後藤 由 紀  
田 芳

秋 田

高橋 実  
花田 寿  
伊藤 子  
武藤 稔  
梶石 一

近藤 優  
門 勉  
千佐 工 才  
塚村 和 二  
佐々 貢 吉  
木田 良 文  
上藤 忠 広  
田橋 孝 良  
崎田 良  
土田 良

山 形

佐藤 和 彦  
武田 裕 聰  
田代 正 武  
渡邊 幸 二  
岡崎 秀 幸  
荒瀬 幸 茂  
深河 富 弥  
寒江 常 美  
芳賀 昌 久  
西田 正 亮  
齊藤 妻 正  
小野 橋 直  
我土 玉 秀  
高藤 藤 俊  
椎佐 藤 聖  
佐鈴 木 須  
那須 風 十  
五沼 大 繁

福 島

長南 喜  
菱沼 和  
小川 容  
熊坂 幸  
引地 隆  
朽木 義  
鈴野 正  
伊分 英  
國田 和  
大和 久  
佐井 武

國分 健  
相大 政  
井坂 和  
鈴山 勝  
鈴木 健  
鈴大 健  
鈴中 健  
鈴三 健  
根馬 健  
梁取 健  
葉谷 健  
佐藤 純  
鈴木 一  
加勢 信  
佐藤 典  
脇本 昌

新 潟

古源 義  
結城 良  
押木 秀  
田才 竜  
種村 敏  
大泉 興  
大橋 英  
陶山 勝  
桑原 浩  
齊藤 公  
中羽 一  
笠原 正  
菅谷 貴  
長川 智  
清水 克  
菅原 雅  
横田 雅  
古島 俊  
佐藤 德  
高藤 康  
西藤 文  
岩矢 洋  
平飯 透  
高宮 真  
坂高 陽  
坂北 陽  
和久 陽

千明 晃  
風間 喜  
中谷 美  
東 京

福島 弓 美  
森三 郁 雄  
及橋 博  
高川 勝  
小小 昭  
大倉 利  
細山 誉  
小野 隆  
龜野 秀  
藤司 見  
上村 憲  
穴戸 幸  
田村 義  
河野 邦  
三大 圭  
大市 浩  
木中 泰  
山下 孝  
千葉 直  
佐藤 智  
田中 友  
川名 ひと

神奈川

高橋 伸  
岡本 隆  
持田 弘  
井口 和  
井田 克  
藤上 美  
利幸 裕  
村海 秀  
上川 賢  
子塚 富  
沼沼 博  
井田 正  
木田 憲  
佐々 美  
々々 悦

埼 玉

大附 泰  
荒木 美  
島野 純  
鳴河 順  
小山 健  
中山 泰  
山見 泰  
櫻井 治  
浅井 一  
田中 雅  
長谷 幸  
江川 眞  
梅原 民  
飯山 皓  
森田 正  
會井 成  
横木 敏  
青高 泰  
高柳 さ  
加高 と

群 馬

佐藤 昌  
黒岩 哲  
大嶋 幹  
豊田 幸  
大小 義  
井治 和  
美井 義  
才井 厚  
藤井 貴  
齋上 敏  
坂井 一  
新井 ま  
横手 さ  
町田 ま

千 葉

宮野 清  
齊藤 和  
立野 博  
岩井 爾  
栗原 彦  
加来 行  
金敏 和  
飯喜 浩  
瀬誠 司  
安大 輔  
増雅 彦  
中光 良  
匝利 治  
丸誠 治

昭武子繁仁興透介浩博晴史樹章夫之雄志誠道孝  
利浩聖寬大孝千和英裕喜博喜武貴とし

口野井井橋川田口田曾村瀬田本倉田手邊畑  
原水晶荻友酒小前齋谷石阿野佐之福森大笹池石渡小

奈良

二偉英守男參一則弓  
謙吉雅良和博道真  
田畑村井上本岡谷  
太天下今尾柿新面更

滋賀

己一好明夫成博浩夫清美  
正善喜利由紀和喜章幸さや  
村代下中田中川本江  
北千宮田澤石畑田北山堀

和歌山

一也男也之男幸已平  
健伸良和寛秀義博隆  
野家松本谷中口裕  
佐大森黒坂瀬野山中

生文已悟郎美

光生三生博弘晃章光秀司正彦廣平人みつ

樹隆和介平壽司平武輝衣

誠馬之明夫典夫彦彦男彦護之武三行治

正勝茂潤弘

晴承修徹和昌正壽孝貴貴俊貴勝格いつ

重惠政恵和博幸良信吉真

一和久建義貴志和康昌和博正雄浩伸

山橋藤合田屋

木村本立村原西根井口尾而畑原波川見

海本田崎橋橋本本田保野

浦岡藤橋内田里田村本中浦内上上福

青大後川山板

高上福足北木大山中溝岩大小藤岩中藪

明萩本宮石石寺松安久波多野

乾杉森加古池水魚榊杉松田松池村井今

美修史夫章治介也治郎仁臣雄昭介豊和子

史康彦明樹明文之幸彦之次一隆誠博典子

孝元正一直秀敏美利克雅佑啓泰光秀源

次人仲壽紀広裕郎栄臣毅也幸寿明也

和雅信良大康有誠芳準昌英孝佑貞恵

銘田林藤沢

藤田里林川村本倉本池門問野浦原井嶋

秀和広松雅利康善治輝万規卓信和秀勝

島下井藤枝中田上田澤達井田

銘田林藤沢

網瀬江下村尾中瀬曾川山井知栗橋藤

重小細松二江田長小稲中藤可小大後

小竹白加今田増川山大安松太坂當原小伊芦

銘田林藤沢

齋山下小森中山鎌増小福縣本佐杉篠白福

重小細松二江田長小稲中藤可小大後

福井

雄幸司信治雄生み  
敏浩一義勇一修あけみ  
口田島多好木田羽  
出濱八本三松隅笠

石川

明則則豊仁  
政充義正  
場田田田谷  
干木内中新

富山

司生明滿三伸実治也人み  
隆相良良彰政宏哲直あゆみ  
匠本木田柳尾木黒淺森田  
番宮青本高日佐々石湯永村

三重

樹之治和宏哉一生司宏正作満美  
弘博道智幸行敬典高俊栄直  
谷中藤川田竹野口西地森内田江  
水田伊真内小北濱宮濱福堀西岸

愛知

弘澄作雄規徳猛次幸  
一耕幸義修清正  
竹瀬田藤山野藤谷須  
大川吉加中坂近瀬赤

弘男雄博郎二雄子

吾夫雄博浩研彦也也紀謙雅成春子

一宏一一明努知実徹史一悟人一治博之卓智輔士猛肇恵悟剛夫弘昭和

和信久義賢祐邦恵

謙幸三孝秀和哲智和三邦智

昌順亮智千正敏裕健成洋泰和浩大貴理健和政正伸

木藤戸井木橋村田

手登矢司月沢村保宮邊井林井中

津井原原沢川宮野野手田水澤島谷田路松井木原原澤田水永岩水

鈴齋森白鈴高高飯

川林沢降神望丹霜大雨渡安小白田

新由上上北市雨矢北川山清林松北中上山小堀林筒塩西深和清徳黒清

潤治彦輔京貴晴男則真宏作之治武茂介恵

幸人功之人浩春明男邦壽二隆一之也之司春生修樹宏実之子

茨城

廣賢英直光美智美時芳晃啓清弘孝哲隆幸義茂茂一政雅幸

栃木

之一征夫治也弘夫則

見敏正大佐正康光欣一好健基隆一啓美

木橋内毛藤高島川関田野島田木崎豆木

茨城

木川上木木田本本倉泉川谷本池家畑中島田部岡坂木倉尻切

栃木

弘英知晴賢哲政政公

宇高石宮石齊飯川室小吉吉福山鈴川伊廣

鈴中井鈴鈴寺坂宮小小皆住根菊真澤山小太小片井鈴片沼小田

茨城

鈴中井鈴鈴寺坂宮小小皆住根菊真澤山小太小片井鈴片沼小田

栃木

遠山横柴上古大蘆保



介保行博也次敬次

之今朝宏秀雅孝孝哲

竜今宏秀雅孝孝哲

野木越川下野留川口

小黒川長木矢福門山

鹿兒島

樹一次志一郎博覺八二一人郎志二巧修み  
秀洋榮勝純逸 喜雄健浩三洋昭 あさみ  
田殿藤住 山後元郷樂野岡崎山泉川久山  
龜古齋山東下肥野東安中吉川村和岩金上

沖繩

浩行樹雄子  
雅敏直鉄淳  
屋城間念城  
照新普知山

樹潔一則浩優典朗文弘徳郎夫博美

義健関郁 孝哲博嘉一謙章孝賀寿

松本河辺川木地藤口田村木田手崎

小塚平渡平眞宮佐田福中青飯井山

熊本

也祐倫治郎章紀浩幸勝治勝雄朗宏隆士治宏朗考治義明之直力幸二朋博美  
達大孝篤愼太 將智昭秀泰 三司昭俊羊英恭研博義光 浩 光伸勇俊初  
水辺塚田上川村見藤原口村村井井野村松永口村永本上 平下川木中田本  
清渡大池田宮清岩齊竹山木中平坂狩戸池宮谷西木松井境小宮竹高田前坂

宮崎

大久範二雄敬  
繁和英静洋  
長斐 斐口斐  
今甲東甲山甲

二治也志郎穰緑

有榮哲智増一

村藤山田 村村

中佐中吉林中北

福岡

一和喜二俊之司美照俊守博郎生修道樹明弥男秀直隆美  
正広輝隆裕康孝敏泰秀 信一 優伸頼輝正信 直  
林田嶋水 野石口野本西橋安木金中山武野藤井中木司  
小富中白森上白山矢森中石富青末野平行濱江松原鈴門

大分

二一雄次義之稔隆樹宏男已生寿生江  
祐淳秀裕孝隆智正秀鎮秀正日出辰春  
岡村野崎原崎上原中部野谷田 羽品  
松下大山梶山井松田岡小熊黒菅鳥與

佐賀

昭明孝士  
朋正昌隆  
陣山坂山

樹継司也一豊修孝昭里

秀善豊勘慎和 壽浩由香里

野下 川川淵浦邊尾市

河山佃大中馬松渡石古

愛媛

也勇聡行憲人勉博泉毅也市郎吉二貢嗣治文江  
和 久浩義 基 義憲治喜英 裕国博菊  
田邊川川谷越村藤口岡木田本本藤下花井丸田  
岡渡寺中新馬木後水芳續松新松伊山立酒金梅

高知

士知二夫司志直三昭  
曉直宏英睦豊正敬茂  
村川田岡本橋崎田  
未河横益笹岩今藤和

長崎

仁幸郎也美昭則衛博介司実  
孝信和勝 幸雅和恵孝龍  
川 田崎平瀬田松永野村副  
小森村濱大中前若末草中川

美由

義弘治巧晃哲彦治行志人規誠則之透也二則三み

高敏陽 伸 勝幸広剛健雅 義治 和裕義章ひと

國井本宅上田村戸田林藤保田岡水川木原本畠

大石中堀新村新三関谷小加久小北清宮三延谷大

山口

生二健誠潤義明一郎夫之幸宏志美子  
達淳 和俊眞和秀和 隆寿陽  
田村井部永野井子福村浦村芳田崎  
島中酒儀松小長金有田三岡久植山

徳島

文彦樹雄篤雄樹靖美和孝代  
正敏茂満孝俊茂 正美文光  
川見木川井林田本尾平村村  
藤立大中藤宮尾山平杉西木

香川

行淳樹学

峰成

川田切

湯岡原堀

鳥取

吾文丈一人弘み  
憲博博新成一ひと  
達崎本倍内林本

鳥根

朗敏彦雄晴次守嗣吾司吾康子  
達眞俊幹康賢 浩宗裕昇 淳  
村塚川野田村島本田尾田 岡  
田飯小大太木中山細妹花萬松

岡山

雄一義郎達之司彦博夫志至浩行一道実幸治民之一吾典幸司  
和武玄志 知哲昌行富隆孝伸秀桂広 伸誠裕貴厚潤眞靖秀修  
原利尾田本上羽室本 取中原原坂井村房谷野成上目原原上  
牧楨曾松池櫻樋細岡松岡鷹畠神笠寺笠上吉文佐近井押笠檜川

## 北海道

一 浩剛 一真 昭由 夫久  
主 賢 浩正 美喜 一  
田上 橋藤 田橋 賀部 橋  
嵐 最高 佐篠 高和 阿高  
治 幸男 豊広 寛博 茂和 二匡 史司 敦郎 之美 美  
賢 義昭 義信 俊 敏良 勝清 一洋 弘 千代  
部 藤崎 間木 谷藤 山部 藤川 沼藤 林村 藤生 藤  
輕 佐岩 源佐 熊伊 横阿 齋及 永佐 小木 遠若 遠  
見 明男 隆也 已広 二浩 夫弘 也徹 記一 雄り 子  
利 洋幸 篤辰 勝祐 稔悦 達 正健 光ゆ 裕  
葉 田橋 役木 向村上 内谷 野田 江澤 谷瀬 木谷  
千 千高 七佐 々々 小下 米下 中蛇 堀米 荒澤 佐々 枉  
宮 城  
尊 晴雄 利男 明昭 浩幸 則美 治二 男一 昭夫 清一 春宏 秀洋 一悦 修市 雄昭 茂幸 男宏 昭  
藤 谷川 邊藤 木向 内部 沼木 遑家 間形 野瀬 田野 藤海 美川 石藤 藤野 邊橋 卷木 藤沼 山  
佐 熊吉 渡遠 鈴日 大阿 大鈴 渡山 平尾 小高 玉丹 加内 渥中 仙佐 佐日 渡高 八佐 々々 後長 秋  
岩 手  
大 川菊 野真 一湯 大弓 工畠 菅千 菅菅 熊佐 佐々 久保 門今 及堀 小畠 及高 千高 阿菅  
一 広誠 夫一 哲樹 幸則 幸亨 一昭 博雄 実文明 男行 彦人 晴徹 満誠 美子 美江 子  
芳 康 一 慎 茂敏 利孝 伸英 信卷 健博 義和一 雅壽 朋 紀裕 勝よ 靖  
藤 嵐山 中山 村木 岡田 口原 形藤 嵐卷 川本 橋上 原野 川山 藤塚 藤市 本本 井岡  
工 五十 平田 澤西 柏石 德大 竹川 小伊 五八 中山 高西 野上 及横 齋富 齊五 河宮 櫻森  
青 森  
山 栗高 中神 泉今 木田 松山 館椎 熊掛 瀬石 吹工 寺兜  
之 樹司 郎洋 智等 昭悟 廣行 哉浩 幸義 樹秀 孝弘 文豊 男樹 樹彦 博功 芳夫 也治 二春 涉男 明夫 一幸 道隆 一文 司二 敏淳 司一 一雄 令  
浩 英孝 喜一 正正 光辰 一 敏正 直泰 恭寿 雅 喜美 基直 利淳 正敏 三俊 淳千 輝政 康治 久正 義裕 敏潔 好英 隆洋 信秀 佳  
樂 塚田 下橋 村門 地野 中藤 木村 浦川 井田 田中 川田 原井 原邊 野澤 村藤 尾原 田川 吉寺 桐島 葉谷 村岡 谷田 田岡 館原 藤上 川藤 間  
設 赤志 山高 西大 菊高 田安 高中 三瀬 入前 山山 竹外 吉篠 酒菅 渡石 中西 伊平 川吉 佐小 片高 千八 植松 古山 村諸 下漆 須井 石工 本

## 山 形

浩 真敏 一徹 之和 賢樹 一満 一薰 介征 也美 弥行 一郎 一智 也一 弘和 樹史 寛浩 孝久 樹典 広雄 一二 弘二 義之  
昌 克健 孝明 秀祐 勇 健光 真一 富孝 昌健 幸 和隆 克博 英將 恭信 和武 和秀 孝幸 真隆 一康 信博  
司 藤井 山藤 林田 宅田 口辺 原田 上藤 藤沼 宅本 形部 田畑 山藤 南中 鉄 藤口 合木 川橋 藤守 田部 生山 嵐  
庄 伊荒 横齋 東海 多三 多樋 渡菅 柴最 佐須 大三 松村 渡栗 藤高 伊長 田八 縮佐 江落 鈴市 高遠 伊藤 吉渡 荒秋 五十

## 秋 田

一 勝夫 仁久 樹美 達薰 孝男 明巧 則彦 成市 浩一 美一文 幸央 裕子 弘雄 世和 春男 宏美  
広 幸 信繁 芳広 文信 道 勝正 公晃 新弘 和忠 晃 恵和 忠秀 重三 春昌 和  
田 時山 岡川 林木 田山 木田 山木 田後 井部 木橋 美村 形風 林野 井田 良木 藤木 藤藤 宮米 橋  
成 目畠 福出 北荒 嶋大 佐々 千越 石渡 鈴高 宇佐 木尾 五十 東高 石柴 相佐 進佐 佐武 西久 泉高

## 宮 城

德 晴雄 利男 明昭 浩幸 則美 治二 男一 昭夫 清一 春宏 秀洋 一悦 修市 雄昭 茂幸 男宏 昭  
尊 光昭 勝次 克裕 文康 忠武 寛春 喜良 智 洋智 邦文 浩陽 幸康 光 伸和 和  
藤 谷川 邊藤 木向 内部 沼木 遑家 間形 野瀬 田野 藤海 美川 石藤 藤野 邊橋 卷木 藤沼 山  
佐 熊吉 渡遠 鈴日 大阿 大鈴 渡山 平尾 小高 玉丹 加内 渥中 仙佐 佐日 渡高 八佐 々々 後長 秋

## 岩 手

晴 雄一 正郎 隆弘 德貞 毅男 郎夫 夫満 一一 淳治 浩朗 和美 信広 雄範 夫巧 行男  
吉 富美 仙幸 吾 隆和 守 富美 五和 政広 真東 健 俊敏 哲保 敏恒 博正 信宮  
山 村池 田壁 兜澤 川藤 山原 葉原 原谷 藤原 木田 口野 川岡 原山 川橋 田橋 部原  
大 川菊 野真 一湯 大弓 工畠 菅千 菅菅 熊佐 佐々 久保 門今 及堀 小畠 及高 千高 阿菅

## 青 森

也 一一 司義 隆守 夫利 而隆 作誉 治二 亨喜 樹逸 夫伸  
欣 敬淳 信德 正昭 裕栄 長 幸隆 枉雄 鑄和 浩  
田 山橋 村 崎荷 野内 葉谷 村川 岡田 藤澤 森  
山 栗高 中神 泉今 木田 松山 館椎 熊掛 瀬石 吹工 寺兜

則清勝典彥誠一計一樹和德  
幸 秀文 修幹嘉辰信美  
淳男男一一好治兒喜功昭進一一美治二情二人彥雄作幸之聖樹秋廣健幸司航男孝健輔美則史博浩

嘉部谷田坂坂井川谷田田  
住下野川田瀬水 田原倉口川川森本木山樂橋部川原村野峰木池保野村上下口野井島原水口沼本島  
比矢森飯増早有石湯車吉川  
豐山吉石西廣清森細桑四田早石金松桜間設高羽小菅島高小若菊大菅岡池宮山澤新矢栗清田小橋川

埼玉

良一広博勉和樹郎夫章美子子子子子子  
雄美美一肇一郎一夫真一明互之子也茂子聰彰子幸二幸子修一正昭明秀広美し彦弥

茂洋明道利 好尚二晃隆亜恵善仲加き淳温  
昭勝伊津小夜良文 昭則 信康一朝 啓信雄利洋 寿忠孝久孝 真た正辰

田野合澤野山野弓肥野沼田野本井目邊納上  
浦田田中 井部木田川本田藤藤内木本本川谷島瀬澤村崎藤本井村木藤沢永竹木  
秋内川平上杉中真土三浅柴藤榎松大渡加倉  
三内半田田谷藤磯鈴内鈴野吉齋加和鈴松宮大高福豊小小野加榎名久田鈴加遲富小鈴

神奈川

行学幸平治彦行宏勝郎健子弓  
秀郎彰功一三夫嗣彦則也浩光彦利子也義人朗二明宜雄一裕勝德一修司人明子友明久誠朗夫維治

弘 洋陽慶征直直 一 みな真  
正雄一 将雄啓良晃孝和竜正昭順守万里哲忠成 健芳義隆耕政 武広康裕雅秀よし敬 清 達寿恭良

村本原嵐倉川藤本庫木澤間塚  
塚川島井井永澤平保海野藤田谷下橋竹桃島丈根藤下水田貝女藤辺口檜月賀田松木上橋子藤上寺  
江山吉五白市近山兵鈴梅佐関  
飯早鹿白武福中大久天吉武宗栗松高植大松百中齋鳴清武矢早乙近渡田八望大和村薦井高金佐井小

東京

潤一矢征男聡隆太司樹彦栄次守幸成俊一博裕隆幸勇透則宏一子樹樹也生一望学弥博誠晶一一晶覚一芳啓吉史則博幸幸哉茂隆人幸

真真重英雅 雅英和和洋 春泰勝太政基喜和 勝明 浩弘英和明健 律和 昭研 勇和 勇雅芳友和浩直 正久康

川 岸橋山原原田生滝場川橋中田貝口辺沢中山島本村本口藤口井野部橋西山村田落澤井卷山室邊越面間 藤木山田野田村尾馬川  
布原山室米乗吉吉桐大坂松高田大細樋渡田安村小幡下滝樋佐井浅高阿高坂村田太水滝富藤村小渡吉河本忠佐鈴中澤吉飯上横相梅

一人元正信三夫雄一晃夫美行和浩浩一明男照雄之昇弘美仁哉一久夫生樹行之環巳男 治樹統之作聡弘一行一由雄次忍治和之一

純勇 能 幸幸辰淳正辰克英孝禎泰洋秀一靖之博 正和和耕仁富司朗祐孝規 正民 栄夏正博健 勝健正祐康英隆 賢良和進

戸月木川橋部井藤藤口藤島木 鳥家竹藤嵐田木松木妻木輪山瓶野林藤野幡井杭賀本 田田浦津泉林藤田内村邊野名藤村藤澤辺  
水卯鈴谷長高渡五齋佐川斎代々々 川久大佐五湯高小鈴新鈴箕平二高東遠高木白半大須米 神音三驚小若齋古竹西渡中星近野加小渡

新潟

人喜喜弥一清也幸一勝夫裕美  
夫行典明智也美哲幸広雄吉一徳彦美信順宏一久徳幸史一勲学也一充徳司正敏啓樹実博一昇徳一

正操洋裕寿 裕紀純宏和 真由美  
秀正善利 秀明 繁智富秀恵正勝勝善清靖幸清義臣広 幸弘浩光知和視 正和 竜 勝雄

上田村林浦井本庭寺山部谷山  
地藤荒部野藤藤治林室藤田藤田邊藤木木澤田本越足間澤内本泉吉本辺部野樂谷賀座根谷上田野  
井成田神三亀榎秋小兼渡熊横  
曳伊高阿清佐佐丹小小遠安遠本渡佐佐鈴金反岩大過佐久平近橋今住岩渡岡草大田芳湯関岩海吉菅

福島



磨仁美彦幸一一一龍介惠浩教昭吾樹智宏知太之志也一郎祥純文弘光清誠晴文幸一優基揚樹司次剛一武規見圭明彦敏彦昭政浩彦臣  
拓將沙一利 健賢 洗利正智成賢英英孝 健博公哲伸誠文 智勝 俊吉昌賢 滿武真浩榮 信 勇琢 寬文政武正好靖正昌  
藤原島井橋海間島藤保東山鳥 松谷上木澤下田本野原木原山坂川澤旗林山林瀬瀬 山村幡花原井井木町内石川藤澤原平内本野  
工菅寺今高新佐中佐大伊向白林小熊川鈴恩松松塚牧下青安橫小小瀧降小高小百一ノ原丸北降矢金一武三高返竹白市佐柳曾大竹梨佐

祥幸子 豐明仁典至美平郎治明雄志記文弘也次茂祐一記晋也史太則良男仁仁人滿修子 幸章明健仁宣幸樹則誠春誠幸充純樹

文浩康 一孝洋和宏和一晃一昌哲広宏正幸和文 洋義正 達公公武明力俊 成 正 隆正志 譽松秀秀尊隆由 裕 裕

村生後 園林林泉旗井水山藤原村山木澤藤嶋田邊野島瀬本塚井野辺家木戸宮馬田羽部 澤藤矢原藤野野柳村越井岸沢川林田  
竹久留黑 桃小平有降伊清秋齊篠岡秋鈴米加松沼渡星飯広岸手北天渡貴船関小相花出長谷部 黑近大佐遠高中高市古今山松癸生小坂

山 梨

長 野

彦彦一夫已久和則美正男均強徹行夫子子 幸之雄幸人理志広孝浩行茂久克司和男之兒彦男樹明行寅之郎嗣昭光幸篤兒征雄一夫

吉克浩良正義芳芳正 幸 信敦京洋 勝孝紀正靖 厚充知信英 泰貞督正一一圭武文英正正 喜隆一篤秀將寬 見孝貞康悦

織松村島藤田門井池田地中林入本野藤藤 塚貫林木塚井部 俣澤塚木崎森澤貫井井村島辺島野地野泉保井口谷地馬山野島目森崎

錦岩中石齋福寺櫻菊吉菊田小坂根関後齋 飯大小青手荒長森川鵜手鈴田大野大室櫻中大渡中水菊館東久田伊勢相小檜小松生大寺

栃 木

也輔吾樹茂介人晴朗子子 明純弘之彰博博誠章亘央豐美樹一一郎一之學生一裕一也宏敏義樹之雄潤雄雄裕雄史忍幸樹公務光志

祐祐新秀 祐直光雄京智 克剛光祐俊友 明 和和優尚志幸正 竜浩隆新卓正和和秀一文 信幸光勝浩 弘正英 肇努

卷込中口田川口藤田木 野名川原井澤郷橋田野瀬越田平戸池 崎木橋田井島田口田塚田 岡口部口橋沢橋澤田保倉井妻藤藤

八輕野山前石坂内保鈴辻 久桑立桑櫻井西高河中廣水島兼三菊柴松鈴本森櫻飯沼山前飯大和机飯山坂山石海高木藤神高生我佐齋

茨 城

幸司生真雄典次之行寬朗明明春一典雄次夫一志之男美一夫一行博秀夫幸昭巧生規也敏徹英博矢史元之治之郎一久尚司幸斗学東介

直健一 隆英要裕友智智裕嘉定祐將敏信幹淳昌常幸茂準一精和一敏正忠 哲吉和裕 正邦達洋弘知光靖拓雄治見 正北 雄

木浅本賀口田口部山川尾木田田梨川丸橋沼嶋崎内田沢木田居野原野藤取橋野田本田邊村瀬屋木苑田郡島山関岡川瀬我吉井塚口津

鈴湯松須野山山黑龜皆坂鈴弓削田梨川丸橋沼嶋崎内田沢木田居野原野藤取橋野田本田邊村瀬屋木苑田郡島山関岡川瀬我吉井塚口津

宏和彦朗雄治夫守子子 樹宏晃也茂次雄一司志仁樹宏康之洋靖也司靖樹和曉浩司雄三助也司哉哉学み 明實則司介男敏成晃

国雄照康信良 智優 大文 晃義健章信隆清康秀明 博 智哲順浩雅雅友泰正晃盛忠勇和幸哲拓 あゆみ 英 安啓大孝英賢正

藤川瀬川井原川井 熊 井上坂村井田木野原澤井津邊柳浅迎木井川鹿澤山保原邊木島多橋谷口本岸口 井井瀬木原生野塚澤

佐羽岩石石栞石石菅大 金井横中金吉荒河塩入廣生田平湯高野千藤大山黑西小萩渡高川喜高神堀宮根堀 石永岩鈴小荻平大米

群 馬

千 葉

樹弘郎信一 崇二 明男 健城 志治 弘浩 雄輔 之洋 弘則 彦之一 明行 仁春 さ子  
宏和 幸実 康秀光 結誠 智貴和 日一大 博三 孝克 康雄 宜厚 善利 つ晶

本 田 尾 田 谷 城 向 岡 岡 中 田 口 井 見 北 村 尾 岡 岸 尾 根 方 原 田 村 中 田 本 田  
戸 吉 秋 德 大 岩 田 吉 吉 田 原 林 永 酒 細 大 植 垣 松 山 中 阪 四 西 井 木 田 浦 吉 森 井

大阪

射 手 矢 岡 根 川 口 本 中 本 野 浦 本 村 崎 本 山 上 川 保 田 西 野  
藤 岩 吉 山 辻 田 砂 浅 三 木 田 尾 松 植 井 黒 久 乾 吉 大 北 平 西

夫之和則人幸詳 覺朗 広之 守元 廣博 裕男 久寛 貴太 寛隆 行 之 朗 司 虎 秀 一 博 信 之 光 幸 生 樹 滿 明 幸 二 代 え

章 高 友 正 政 秀 和 哲 貴 宏 智 貴 富 典 豐 滋 繁 考 一 龍 博 宏 雅 光 幸 大 重 慎 隆 政 茂 和 浩 章 良 德 隆 健 美 こ ず え

藤 田 嶋 野 田 柄 田 橋 辺 井 木 野 口 田 藤 口 木 村 原 田 置 藤 瀬 田 木 川 前 橋 川 卷 田 野 淵 田 中 本 田 内 生 口 島 日

武 上 中 高 高 長 梶 大 渡 藤 青 牧 田 岡 伊 谷 佐 々 河 野 原 和 日 伊 成 堀 鈴 西 植 高 藤 坂 飯 水 馬 須 田 橋 松 坪 河 山 蓑 朝 楓 西

京都

美 広 男 尚 樹 章 次 之 史 章  
龍 義 和 久 裕 榮 裕 岳 雅  
村 田 村 川 室 田 川 田 井  
木 澤 木 蛭 岩 芝 山 長 多 藤

子 理 眞 篤 章 男 武 哉 彦 誠 範 初 秋 久 行 夫 信 嘉 夫 留 久 優 弘 央 也 也 靖 馬 覺 彦 已 保 晴 弘 紀 也 克 典 美 之 郎 之 將 嗣 慶 美  
晃 久 照 和 克 正 千 盛 博 康 道 成 秀 実 智 好 昌 賀 哲 順 飛 雄 勝 卓 文 康 泰 晴 純 典 大 広 貴 晃 一 眞 育 佳 大 雅

本 岡 馬 山 相 鈴 川 山 森 平 下 松 小 鈴 安 藤 小 鈴 渡 白 井 湯 渡 千 角 伊 下 藁 戸 福 松 齋 松 加 今 西 浅 深 内 和 袴 和 大 伊 目  
場 本 馬 木 口 田 田 野 里 波 野 木 藤 田 林 木 部 鳥 澤 本 邊 葉 皆 藤 田 科 塚 代 本 藤 下 藤 村 川 岡 見 藤 田 田 田 村 奈 黒  
山 崎 早 岩 大 舟 松 牛 洞 杉 溝 水

岐阜

一 文 博 男 夫 樹 保 央 誠  
啓 博 善 重 克 宏 実  
田 森 崎 田 丸 本 脇 口

文 巖 哉 吾 次 司 輝 和 明 讓 司 之 文 泰 仁 裕 志 生 德 明 人 行 仁 吾 彦 司 一 一 準 照 司 士 一 幸 幸 充 行 生 樹 一 司 紀 章 馬 也 一 也 輔 介 介 男 英 裕 朗 隆 一 美

治 仁 信 健 周 德 博 頼 賢 昂 貴 久 和 貴 武 宗 隆 光 直 隆 康 圭 和 典 賢 秀 洋 浩 達 修 剛 勝 雅 泰 稔 秀 進 厚 英 晴 竜 裕 龍 直 大 康 大 礼 嘉 俊 達 泰 一 由 紀

立 田 野 村 野 口 野 野 邊 田 崎 田 田 井 瀬 田 口 田 田 黒 田 原 崎 野 井 木 野 浦 本 田 野 本 尻 井 林 橋 吾 嶋 美 谷 下 木 木 村 木 木 谷 野 羽 橋 田 根 野 根

足 上 水 木 平 谷 日 水 渡 奥 須 近 森 坪 成 蓮 山 本 内 石 坂 澤 榊 森 宮 平 横 黒 黒 三 鈴 植 水 林 河 酒 登 高 余 寺 宇 熊 竹 鈴 佐 岡 々 々 荒 鈴 熊 牧 丹 石 鎌 山 宇 山

一 和 紹 嗣 博 文 弘 一 子 子 尚 男 二 秀 已 幸 一 一 子 介 治 久 秀 昭 己 也 也 輔 彦 明 晃 也 晃 史 史 二 之 晴 哉 司 子 子 朗 雄 正 郎 仲 孝 猛 之 雄 也 朗

伸 俊 貴 正 智 章 勝 繁 幸 素 義 正 浩 俊 辰 康 研 正 悦 裕 伸 清 文 雅 泰 眞 貴 泰 吉 拓 直 哲 佳 篤 伸 寛 丈 雅 佳 信 寿 吉 博 二 和 雅 隆 辰 竹

政 瀬 野 野 名 原 田 原 永 田 野 田 崎 村 久 林 松 副 本 岡 井 川 作 谷 谷 飼 崎 田 田 村 倉 郷 石 岡 瀬 木 井 内 村 鼻 葉 田 田 坂 田 本 田 倉 田 藤 尾 野

杉 廣 上 中 健 清 高 宮 藤 前 竹 矢 宮 西 松 三 末 岡 榎 北 堀 吉 永 井 水 鷗 山 永 太 河 小 竹 大 福 廣 杉 龟 垣 中 竹 椎 西 武 武 津 原 松 吉 大 菱 伊 寺 水

三重

愛知

宏 三 吾 弘 男 明 博 隆 二 一 市 樹 弘 男 明 夫 治 德 信 博 美 勇 治 一 一 司 夫 志 則 一 一 保 志 彦 子 二 裕 一 一 優 光 正 則 伸 司 幸 博 人 喜 宣 彰

武 浩 淳 靖 幸 泰 義 昌 実 啓 善 直 吉 富 広 富 正 一 義 一 裕 幸 精 仁 國 武 吉 信 浩 清 敬 康 佐 貴 浩 恭 隆 博 浩 俊 才 康 秀 正 裕 永 祥 芳

田 林 越 谷 田 井 孝 政 田 木 本 磯 瀬 中 川 丸 野 下 井 田 田 山 端 森 平 浦 竹 梅 林 東 高 歌 塩 石 澤 田 瀬 島 端 原 中 田 崎 田 毛 田 野 林 田

山 小 吉 見 林 坪 酒 佐 末 安 佐 々 岸 小 川 田 長 石 市 滝 大 内 芝 中 尾 山 平 浦 竹 梅 林 東 高 歌 塩 石 吉 柴 中 牛 出 戸 柏 田 保 山 曾 稻 米 中 坂 村 南

福井

石川

富山

文吾樹介彦明洋治治一貴郎勲徹恵子

博大直恵直訓 晃重真 次 和敏 秀則実司吉一夫司治也治一紀治誠修志則子寿治巧由男治示誠彦壯仁彦徹文頼彦春人治実

井藤村藤川本島田賀岩川實木田川行 口岡 尻 川本本中垣内橋永谷本谷飛原本上田戸原谷邊岡山原川木井 藤田西田張本

白遠西加堀岡二武多藤西時森柴市近 滝上西尾敷住川平岸西神竹倉西浦森倉黒藤坂梶木和弓西宮渡森丸柏鍛治々々 讚沖平柴大高出山

力喜子 三文好宏東伸道也茂二春一男成路也生郁夫夫一字徳久之一治一郎樹一信弘一郎彦幸勝昌也治学成男志義治洋喜一吾弘誠

美喜子 省敏雅高 芳治伸 神武堅哲 眞琢英裕敏一真十雅教高祐憲壯一憲直典武恭太晋昌由 敏哲工 義和孝智英隆紳君将佳

口田 山本本久田下中本山達本 下田田田藤田井西月島上口松嶋田原上木山本石泉口名木本川定原岡田越野川本田乗坂澄澤定

山太 片花宮政滝大西松久安倉森山吉黒小近新菅大大大河山小田鷺灰山赤景山立小樋春赤山畝國高長成馬才大山太數高日瀧頼

大弘進三宏行寿成功品美 人已義玄雄尚繁浩之策行和肇代 男弘美宏司一夫勲幸也洋久司浩司弘幸也幸雄彦登藏治浩二人誠

幸順 平好広庄隆 康清 幸由章 幸 秀祐敏義 美智代 治康幸暢健修真志 義哲充晃 惇耕好敏達隆和勝 健雄 恵宗

口下呂治田保野内谷坊本 田椋本林田岡藤川田原谷根生見 本木尾谷石村江野田藤田生寄賀村見山山原 根部島尾水村橋原

川山津宇早棟萩藪森下山 鹿小松小岡吉養柳河兼熊山柳相 坂船松小片秋入河布加太蒲片大上知野福金藤林白勝中麻清吉石北

司豊一之之市子 裕人源雄隆馨吾之矢樹崇一治弘浩隆雄美三樹司昭道一鶴 夫人寛己彦朗幹洋文弘則朗児治英郎二宏次彦真

好 清禎敏浩留美子 康徹 康芳 進裕真良 玄伸保政一義清祐重宏利一真千 茂俊泰修和寛佳友隆敏安洋健清高弘竜晃庸公靖

本岡井原田本本 田川城村 澤本田合上西橋木田本本岡田山飼原郷入原森 岸下辻田松瀬畑坂木口島本浦 下松田田井本岡

岡亀藤吉増山藤 松滝宮田岡小松津川三今三鈴西山山滝原青鷗杉久立菅大 根寺上新有百小相荒山水桶松鯨藪若鎌嶋宮楠福

藏也樹史喜人也人太克一大彦則毅雄一宏夫征剛男造太章則征寛介也介嗣仁誠明和行樹人一幸子 一治剛昭広幸彦二樹樹知一実

竜直和雅春正順憲良佳英 昌孝 信真和勇卓 俊耕昭祥孝良 勇徹俊将貴 廣秀知正一憲美博 孝圭 光利孝孝淳智正 潤正

見田本中尾井本木原瀧野田島満尾海田田川尾治橋中芝中 幡岡岡本政田木井本岡盛 浦下 原内崎田本浦末田谷間田岡田

吉角松田井酒稻武柏瀬白中宮廣道藤内飯出原北長佐大福尾今館小廣細藤友半上平坂藤道原松山 奈良 萩森大植西宮神西花勝太廣東

子 弘也宗生男之彦洋三佳一喜彦次豊志彦尚敏策之治弘進男誠一仁春義一成明人弥弘彰宣史聡男純肇勇永弘貴貴石昭宏二学広

尚 壽浩祥章文貴勝康恵伸誠保孝隆 孝清豊雅秀隆英晃 幸 淳和道和賢利浩正克智 彰悟 哲 章重和勇相正佳準 雅

川 山田戸塚谷川谷原山西中田嶋部田島川岡穂田本島田橋野浦村田 野居原川野野橋井澤崎卷田内西原中上保田村定本山上野

浦 高増角大中吉大高中宮田山児磯柴竹松森赤池山浦富大矢松西岩泉八新菅成山荻内平神川小高山前藤山橋久吉中宮山秋井水

兵庫

岡山

鳥取

鳥根

滋賀

和歌山

奈良



紀男晴登二司二勉学一裕郁三昇夫德美義淳美文二正郎司治也司夫徹美樹久浩宣已視一代  
真九武一幸浩誠昭孝幸淺繁勝武勝博健頼宗淳英哲明邦一茂和芳康和榮弥  
田原月野田原浦原津辺米木吉野田友野斐藤田幡田尾田良元田神藤部野尾井山川藤藤崎  
大分小泉塩大原桑三三川渡久壽秋河野末花甲佐清小桑原山太相森林原太衛阿矢山板諫石佐工神  
香月瀬橋野崎口賀濱形川口内尾  
佐賀香畑石上宮江古蘭白尾岸江里竹之中

生行治美德孝二博義宏之強亨也浩郎隆裕一夫生雄幸也一一憲郎司哉郎司昭飛次人治幸兒弥英秀典一剛治一哉彦幸彦二太一子  
文禎貞勝孝英浩克勝逸辰康和光要豐直伸民和敏玄幸博洋勇一健太一佳浩一武德雄辰正修定俊勝武和克榮清健慎一章信基建隆洋久美文  
上川田武方田庭崎岡田田水玉田瀬倉南長丸野井原上野野吉口田尾野口谷部島村尾尾原田橋久山寄下邊塚守島野本塚野村上生田本  
井早柴吉緒松大山高松生白兒村今高小安内内浅藤村小川弘高武蓮小山新矢ケ田中松松仁田二石富大野山渡大田守水山山市木村日德坂

弘夫和人透雄夫江德世浩也光人春郎太伸弥成介樹弘彦德彦由一一光貴則男好満章一生修明彦彦二一雄郎吉稔弘濟一美藏  
修都吉英英章靜勝英智稔明光次亮浩拓良庸英義勝克和勝忠則嘉裕一伊佐初豐直佳幸浩和一誠秀二一伸義嘉伸由  
野中岡木原中上川口本道口木石測原田田永口玉田川石村上本石田川永浦村口利田崎居浦村田田山口森田本野塚  
平山安佐小笠田井細長崎谷野山川峰佐々大田藤前島岩山兒池古大梶川網大原品富神之濱山由濱玉小三中林太松槐野竹小宗吉朝鬼福岡小山龍  
治昌則樹司明郎郎成輝昭雄宏進三高男一康直壽樹一數德修和雄悟志裕利郎夫一雄男典則澄起志洋起幸雄仁長一彦夫稔彦一文  
本敏好秀祥秀哲康一福重恭公昌龍伸重正孝秀健義直雅利祥高元貴吉恒光富和明正眞由大光隆憲貞正寿洋博哲英美博  
野波本井藤嶋上田本部井武口村宮崎島上築甲子田西都垣水山川村谷竹山智田川津森永田藤岡松本田島原吉浦原崎  
日仙松松加竹鴻和森松長谷部井武口村宮崎島上築甲子田西都垣水山川村谷竹山智田川津森福秋佐西小吉松眞原大濱松黒大

也樹彦司博一調夫善行展哉広利祐章信広範智二秋樹文三治学已誠和佳雄規憲昭司教一史久堂薫美浩一和明介吉留輔勉久  
哲義安圭一功主光一和良達和勝大哲繁泰俊誠千直奉聖幸雅國克照裕裕昌浩道浩昭照德惠圭政伸孝眞大佐哲  
野井井富井西岡川村山敷田見原井藤家井原川場岡川井島井家野松部城藤田田倉河本川石橋地本石瀬田村田光邊甲野石  
横赤北安坂大武中桑内居尾須藤福佐松河嵯峨荒馬久泉白間深守阿小真高近濱藤藤林十乾宮宮明高青谷高赤藤野入末渡上館白

文久昭丈誠隆朗亨德和美道文修之二夫隆定一一博則仁守良保進豊二誠行司二也則二昭正進幸志文一浩子子茂博徹敬一樹  
浩善寛晴哲康美茂宏隆浩健郁泰英健英義忠良良俊賢正達義雄博信清隆淳雅信純元功秀  
平川崎田岡下崎池広池甲田村邊尾川野田本岡上村田稲村万野藤洗田野中岡田川永崎本根原崎村田川船崎  
城小高新鉄松岡小国蓮胃山口黒西渡長森中波森寺村木重野中小中工御手松河豊村原長谷松宮森山松川谷岡古木尼柳

徳島奈須野瀬川田山口  
早藤多尾森



勤続章

都道府県名	氏 名	受彰者数
北海道	佐 野 嘉 彦	他571名
青森県	倉 内 初 美	他218名
岩手県	田 村 一 夫	他384名
宮城県	高 橋 宗 弘	他340名
秋田県	齊 藤 大 助	他340名
山形県	庄 司 敦	他185名
福島県	伊 藤 勝 明	他317名
新潟県	佐 藤 広 和	他345名
東京都	早 川 雄一郎	他194名
神奈川県	小 西 義 秋	他140名
埼玉県	濱 野 隆 雄	他308名
群馬県	長谷川 貴 之	他179名
千葉県	秋 本 勝	他324名
茨城県	宮 崎 秀 司	他315名
栃木県	鈴 木 一	他143名
山梨県	志 村 幸 広	他79名
長野県	尾 沼 学	他66名
福井県	岩 佐 清 嗣	他70名
石川県	河 村 宜 俊	他77名
富山県	杉 政 伸 一	他144名
三重県	浅 井 節 雄	他100名
愛知県	武 田 吉 雄	他126名
静岡県	土 屋 竜 峰	他89名
岐阜県	佐 藤 孝 則	他53名

都道府県名	氏 名	受彰者数
京都府	北 尾 雅 彦	他145名
大阪府	中 谷 峰 男	他110名
兵庫県	清 田 真 吾	他394名
奈良県	井久保 裕 也	他124名
滋賀県	木 村 浩 正	他93名
和歌山県	上 辻 泰 寛	他237名
鳥取県	木 下 博 之	他92名
島根県	松 本 伸 也	他212名
岡山県	金 光 美 秀	他460名
広島県	天 野 直 樹	他346名
山口県	伊 東 幸 雄	他290名
徳島県	森 出 芳 樹	他126名
香川県	佐 藤 雅 彦	他137名
愛媛県	松 岡 増 幸	他334名
高知県	村 上 徹 典	他124名
長崎県	村 上 憲 浩	他127名
福岡県	松 本 大	他187名
大分県	濱 崎 正 秀	他221名
佐賀県	西 川 智 孝	他136名
熊本県	山 田 盛 輝	他186名
宮崎県	原 聡一郎	他125名
鹿児島県	布 市 治	他248名
沖縄県	與那覇 政 行	他51名

9,659名



閉式の辞 日本消防協会 下山正彦副会長

優良婦人消防隊(表彰旗)

6 隊

都道府県名	消 防 隊 名
神奈川県	横須賀市三春婦人消防隊
栃木県	栃 木 市 婦 人 消 防 隊
滋賀県	坂 本 八 区 女 性 消 防 隊
岡山県	神 島 地 区 婦 人 消 防 隊
香川県	多度津町白方地区女性消防隊
長崎県	青島婦人防火クラブ消防隊

優良婦人消防隊員(功績章)

7 名

都道府県名	所 属 氏 名
宮城県	石 巻 地 区 婦 人 消 防 隊 佐 々 木 貞 子
神奈川県	横須賀市船越町婦人消防隊 早 川 と よ み
茨城県	坂下地区女性防火クラブ消防隊 長 瀬 好 子
栃木県	足利市女性防火クラブ連絡協議会 板 橋 良 枝
滋賀県	石山寺辺女性自衛消防隊 森 山 愛 路
和歌山県	松江ファミリー婦人防火クラブ 樋 口 和 子
岡山県	上 市 女 性 消 防 隊 立 花 久 恵

永年勤続職員表彰

9 名

所 属 氏 名
日本消防協会 高 橋 文 夫
日本消防協会 伊 藤 京 子
日本消防協会 松 尾 賢一郎
日本消防協会 柏 井 まどか
秋田県消防協会 石 山 和 美
山形県消防協会 浅 沼 明 子
福井県消防協会 辻 岡 陽 子
福岡県消防協会 大 倉 貴代香
鹿児島県消防協会 長 崎 久 代



# 講演「能登半島地震とコミュニティの役割」を開催

(公財)日本消防協会

日本消防協会では、3月8日(金)消防団員等を表彰する第76回日本消防協会定例表彰式と併せて、神戸大学名誉教授の室崎益輝氏よりご講演をいただきました。

「能登半島地震とコミュニティの役割」についてと題した講演では、令和6年1月1日に発生した能登半島地震での、地域コミュニティと消防団が果たした大きな役割について実例を交えてご紹介いただき、能登半島地震に象徴されるような災害の進化に対して、防災やコミュニティが進化で応えることで地域防災力を向上させていく必要があるとご講演いただきました。

講演内容については、日本消防協会ホームページにて4月頃から動画配信を予定しています。



# 日本消防協会定時理事会・評議員会 全日本消防人共済会臨時総代会 を開催

(公財)日本消防協会・(生協)全日本消防人共済会

令和6年3月7日(木)ニッショーホールにおいて、日本消防協会の定時理事会・評議員会、全日本消防人共済会の臨時総代会を開催しました。

日本消防協会での議決事項等については、下記のとおりです。

なお、令和6年度事業計画については、次号でお知らせします。

## 議決事項

第1号議案 令和6年度事業計画について

第2号議案 令和6年度収支予算について

第3号議案 令和6年度都道府県消防協会分担金について

第4号議案 日本消防会館管理規程の全部改正について

第5号議案 日本消防会館貸室等賃貸借契約規程の一部改正について

第6号議案 役員賠償責任保険契約について

※評議員会では、第4～6号議案は理事会決議事項として報告

## 協議事項等

- (1) 新会館建設進捗状況について
- (2) 新会館完成後の主要イベントについて
- (3) 消防団員確保対策について
- (4) 第24回ヨーロッパ青少年消防オリンピックへの派遣について

## 諸般の報告

- (1) 今後の全国大会等の開催計画について
- (2) 防災推進国民大会の開催について
- (3) 消防育英会支援自動販売機の設置状況について



# 都道府県消防協会事務局長会議の開催と 第30回全国消防操法大会の抽選会を実施

(公財)日本消防協会

令和6年2月28日(水)、午後1時30分から新橋のニッショーホールにおいて、都道府県事務局長会議が開催されました。

会議は、秋本会長のあいさつのあと、総務省消防庁 河合総務課長より、令和6年度消防庁予算(案)の概要、2月6日付けで発出された「消防団の更なる充実に向けた総務大臣書簡」について説明がありました。

続いて各部から令和6年度事業案の説明がありました。



都道府県事務局長会議



第30回全国消防操法大会出場順抽選会

会議終了後、令和6年度に実施されます第30回全国消防操法大会の出場順の抽選会が行われました。

抽選結果は以下のとおりです。

## 第30回全国消防操法大会 出場順

出場順	ポンプ車の部	小型ポンプの部
1	長野県	岐阜県
2	高知県	愛知県
3	三重県	京都府
4	宮城県	島根県
5	秋田県	東京都
6	富山県	千葉県
7	埼玉県	福島県
8	栃木県	愛媛県
9	鳥取県	兵庫県
10	静岡県	佐賀県
11	北海道	石川県
12	香川県	山梨県
13	山形県	山口県
14	徳島県	広島県
15	熊本県	岡山県
16	茨城県	群馬県
17	大阪府	大分県
18	長崎県	滋賀県
19	宮崎県	宮城県
20	福岡県	岩手県
21	神奈川県	新潟県
22	沖縄県	青森県
23	和歌山県	鹿児島県
24	福井県	奈良県
	24隊	24隊

※ ポンプ車の部の出場順については、奇数が第1コース・偶数が第2コース

# 消防育英会定時理事会を開催

(公財)消防育英会

令和6年2月8日、ヤクルト本社ビル6階大会議室で「令和5年度消防育英会定時理事会」が開催されました。

## 1 議 事

- 第1号議案 消防育英会令和6年度事業計画及び収支予算案について
- 第2号議案 評議員会の招集について
- 第3号議案 (公財)JKA補助事業完了時の自己評価について

## 2 報告事項

- (1) 消防育英会奨学生及び奨学金等の状況について
- (2) 消防育英会支援自動販売機の設置状況について

※ 議事については、異議なく承認されました。



総務省消防庁に  
設置された自動販売機

### ■お問い合わせ先■

公益財団法人 消防育英会  
〒105-0021  
東京都港区東新橋1-1-19  
電話：03(6263)9748  
FAX：03(6263)9863  
E-mail：ikueikai@nissho.or.jp



### 消防育英会 支援自動販売機の設置状況

消防育英事業の安定的な運営に資することを目的に、平成26年度から、消防育英会支援自動販売機事業を行っています。総務省をはじめ、全国の消防本部、消防署、消防団を中心に132団体、計501台が設置されています(令和5年12月31日現在)。

飲料水の売上の一部(原則2円)が消防育英会に寄付いただくもので、1台でも多くの設置をお願いしています。



# 消防団協力事業所表示証の価格改定について

(公財)日本消防協会

当協会よりご購入頂いております消防団協力事業所表示証につきまして、原材料、諸経費、製造コスト等の高騰により、次のとおり販売価格を改定させていただきます。

○改定日時

2024年4月1日(月)ご注文分から

○販売価格(税抜)

2,400円 → 3,000円



## 購入申込み方法

当協会ホームページにて購入申込書をダウンロードのうえ、FAXまたはE-mailにてお申込みください。

当協会ホームページ <https://www.nissho.or.jp/>



〈購入申込書〉

## 購入に際しての注意点

- 1 これまでご購入頂いた方につきましても、販売価格の改定に伴い購入申込書が改訂されておりますので、新しい様式をご利用ください。
- 2 納品につきましては、当協会が受領後、約2週間です。  
※祝日等連休の時期は、発送が休日分遅れますのでご注意ください。



# 消防団の意義と多様な活動について

秋田県 (一財)秋田県消防協会

## 1 消防団加入促進モデル事業

近年、全国的に消防団員数の減少に歯止めが掛からず、地域防災力の確保に深刻な懸念が生じています。本県でも減少数が拡大しており、令和に入ってからその傾向が顕著になってきています。このため、秋田県は消防団のイメージアップにより加入促進に繋げるため、令和5年度から3カ年の計画でモデル事業を行うこととし、今年度は次の事業を実施しました。

- ①市町村が実施する消防団活動の体験を伴うイベントに対する支援
- ②若手及び女性消防団員によるワークショップの開催
- ③今後の消防団のあり方、役割を考えるシンポジウムの開催

## 2 消防団活動体験イベント

大館市消防団が、圏域の産業祭で消防団ふれあいブースを設置し、2日間に亘り纏振りや資機材の体験会、子ども向けの消防団クイズや防災スリッパの作製などを行いました。纏振りのステージでは、秋田県住みます芸人や地元ヒーローが登場し、予想を上回る観客が集まり賑わいました。

美郷町消防団が、「地域のふれあい」「交流の輪」をテーマとした美郷フェスタで消防団ブースを設置し、子供とのふれあい活動、町人劇団による募集呼びかけ、よしもと芸人とのお笑いステージなどを行いました。

いずれのイベントでも消防団を身近に感じてもらうという目的は達成できたと思います。



産業祭での纏振り(大館市)



子供消防団員制服を用いてのふれあい活動(美郷町)



消防団員でもあるご当地ヒーロー「コウライザー」(大館市)

### 3 若手及び女性消防団員によるワークショップ開催

県北、県央、県南の3ヵ所で、それぞれ20数名が集まり3グループに分かれて、「活動しやすい消防団とは～自信を持って加入を勧めるために!」というテーマで現状と課題を話し合いました。

参加者からは、実践的な訓練の機会を増やしてほしいという意見や、消防団の活動状況が一般の人に知られていないのでPR活動に力を入れるべきだという声が多く聞かれました。新たな消防団員の加入を促進するためには、若い世代が誇りを持って活動出来る消防団であることが不可欠です。

秋田県消防協会としては、今後も若手や女性消防団員どうしの意見交換や交流を後押しするとともに、彼らを主体としたPR活動に力を入れていきたいと考えております。



### 4 今後の展開

イベントとワークショップの成果を令和6年2月に開催するシンポジウムでアピールするとともに、令和6年度は、イベントや防災キャンプフェスなどで消防団活動PRを行うほか、消防団員が所属する事業所の理解と協力を促進する取組を行うことにしています。

こうした取組を通じて、地域防災の要である消防団の意義と多様な活動を広く発信していきます。





## 量と質、どちらも妥協しない 多数精鋭消防団が守る街

東京都 目黒消防団

東京、千葉、和歌山を拠点に全国7か所にキャンパスを展開し、毎年数多くの医療従事者を輩出しているのが東京医療保健大学だ。特に看護学科の入学定員数490名は国内最大規模を誇り、活気にあふれるキャンパス内には白衣の実習生の姿も多く見られる。目黒区東が丘に校舎を構える東京医療保健大学国立病院機構キャンパスは、都内近郊の救急医療体制の一角を担う国立病院機構東京医療センターと連携し、恵まれた病院実習先を持つことから、毎年全国から数多くの入学希望者が訪れる。

目黒消防団では平成23年より、この東京医

療保健大学東が丘看護学部对学生に対し入団促進を働きかけており、その歴史は今日まで途切れることなく、過去11年の間に述べ622名の学生消防団員の入団を実現した。もとより、『人の役に立ちたい、人の命を救いたい』と言った社会奉仕精神の気持ちが人一倍強い本学部の学生達は、消防団活動への関心も非常に強く、豊富な医療知識と若い力に溢れた若者たちが数多く消防団に在籍することは目黒区全体の規模で考えても大変貴重な人的財産と言える。

こうした学生と目黒区の強固な連携が実現した背景には本学部の大学における社会の役







割として「社会に貢献できる真の医療従事者を育成したい」という熱い思いがあった。

更に、平成25年に施行された「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」第12条(大学等の協力)において、学生が消防団として円滑に活動できるよう適切な修学上の配慮を促すことが規定され、大学側からも「地域貢献の機会が増えることは学生達にとっても医療従事者としての糧となる」との思いから、本体制が始まった。続く平成29年には「目黒区と東京医療保健大学との連携・協力に関する基本協定書」が締結され、大規模災害発生時においてより強固な連携体制が図られた。

過去13年間の新入学生の平均入団数は47人/年となり直近5年間の平均在団者数は166

名に上る。先輩から後輩へと消防団活動を通じた社会奉仕精神の心はこの学校に強く確実に根付いている。管内にある大学等に対し学生団員の入団を呼びかけている事例はいくつかあるが、これだけ継続的かつ大規模な学生消防団員が在団している例は珍しい。

地域の力になりたいと思う学生の情熱、それを開花させようとする学校の願い、そうした思いを実現させる行政の取組が、目黒区にこのような強固な地域防災力を産み出した。

18歳以上の心身共に健全であることが東京消防団入団への入団条件であるが、ここに医療の知識が加わることは有事の際の消防団活動において非常に大きなアドバンテージとなる。質・量ともに卓越した目黒消防団の活躍にこれからも期待してもらいたい。





# 長崎市消防団加入促進チームの活動について

長崎県 長崎市消防団

## 1 長崎市の紹介

長崎市は、九州の西端、長崎県の南部に位置し、長崎半島と西彼杵半島からなる、江戸時代には西欧文化唯一の玄関口として、隆盛を誇った人口約40万人の中核市です。

南を長崎半島の中央を連ねる八郎山系、西及び北を西彼杵半島の一角をなす稲佐山と岩屋山を結ぶ山脈に囲まれ、浦上川、中島川の両水系によって形成された平地部分と、そこにつながる丘陵地帯の限られた部分が市街地となり、西南に紺碧の水をたたえる長崎港を抱えています。一般に急傾斜地が多く平地に乏しいため、家屋は傾斜面に沿って山腹に向う特異な市街地を形成しており、港から山頂付近まで続く街並みは、夜になると美しい景色を呈し、「一千万ドルの夜景」とも言われています。

## 2 長崎市消防団の概況

長崎市消防団は、歴史をたどると1676年(延宝4年)に長崎に町火消しとして発足したのが始まりで、昭和23年に長崎消防組が結成され、平成の大合併等を契機として、現在の18地区からなる長崎市消防団となりました。

さらに、防火防災体制の強化を図ることを目的として、平成29年に現在の組織である、4方面隊、18地区、70分団、116部、定員2,944人に改編を行い、現団員数は、令和6年1月1日現在、2,397名となっております。

## 3 長崎市消防団加入促進チームの活動について

長崎市消防団加入促進チームとは、2019年4月に発足し、現在、男女混成計10名の若い世代の団員を中心として構成されたチームで、そのネットワークや情報発信力を活かした新たな提案やイベント等での企画を通して、特に若い世代を中心とした入団促進活動を行っています。

主な活動として、団員募集を呼び掛けるイベントをチームで企画したり、商工会や各企業が主催するイベントの場をお借りして入団を呼び掛けるとともに、チラシやノベルティを配布したり、消防車との記念撮影や缶バッジ作成などの広報媒体を用いて、消防団活動や処遇について紹介し、消防団活動への理解と入団促進を図っています。

また、高校生への講話や大学の学園祭での新入生を対象とした寸劇等を通じて、学生に消防団活動を紹介しています。これまでのイベントでの活動回数は64回、イベントでの勧誘をきっかけとした新規入団者は47人にのぼるなど、各分団の新規入団にもつなげています。



## (1) 各種イベントでのブース出展

地域での祭りや、大規模イベントへ消防団PRブースの出展を行っております。

また、今年度初めてチーム主催でのイベントも開催し消防団の魅力度アップに貢献しています。



\* 出初式でもイベントブースの担当として活躍

## (2) 高校生講話

高校生に対して、消防団の役割や活動紹介等を行い将来の入団につなげる取り組みを実施しております。



## 4 結びに

長崎市消防団では、これまでチームが中心となってイベント開催情報を発信したり、消防団に関する質問や相談が気軽にできるように、SNSによるアカウントを開設し、情報発信ツールとして活用してきました。今後は、これまでチームが実践してきた加入促進の取り組みを、長崎市消防団全体で共有し、更に若い世代の方に気軽に入団してもらえるように、それぞれの地区に応じた消防団活動を様々な広報媒体でPRし、消防団員の減少に歯止めをかけられるよう取り組んでいきます。

# 外出先で地震にあったら

総務省消防庁 防災課

地震はいつ発生するかわかりません。

地震が発生したとき、身の安全を確保するには、一人ひとりがあわてずに適切な行動をとることが極めて重要です。そのためには、日ごろから私たち一人ひとりが地震に対して正しい心構えを身につけておくことが大切です。

今回は、特に外出先で地震にあった場合の適切な行動を取り上げてみます。

## 1 住宅地

**強い揺れに襲われたら、住宅地の路上では落下物や倒壊物に注意しましょう。**

- 住宅地の路地にあるブロック塀や石塀は、強い揺れで倒れる危険があります。揺れを感じたら塀から離れましょう。
- 電柱や自動販売機、耐震性能の低い住宅が倒れてくることがあります。そばから離れましょう。
- 屋根瓦や二階建て以上の住宅のベランダなどに置かれている物が落下してくることがあります。頭上からの落下物に注意しましょう。

## 2 オフィス街・繁華街

**中高層ビルが建ち並ぶオフィス街や繁華街では、窓ガラスや外壁、看板などの落下物に注意しましょう。**

- オフィスビルなどの窓ガラスが割れて落下すると、広範囲に拡散します。ビルの外壁や貼られているタイル、外壁に取り付けられている看板などが落ちることもあります。鞆などで頭を保護し、できるだけ建物から離れましょう。

- デパートなどの建物の中にいる場合には、陳列棚の商品や装飾品などが落下する危険性があります。揺れを感じたらすぐに離れましょう。
- エスカレーターは、急停止することがあります。急停止した際の反動に備えて、普段から手すりを掴むよう習慣づけておきましょう。
- エレベーターは、全ての階のボタンを押し、最初に停止した階でおるのが原則です。また、閉じ込められた場合は、焦らず冷静になって「非常用呼び出しボタン」等で連絡を取る努力をしましょう。



## 3 海岸付近

**海岸付近で、強い揺れや弱い揺れであっても長い時間ゆっくりとした揺れに襲われたら、一番恐ろしいのは津波です。避難指示を待つことなく、直ちに避難しましょう。**

- 強い揺れを感じたとき、または弱い揺れであっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたとき、揺れを感じなくても津波警報等が発



表されたときは、直ちに海岸付近から離れ、急いで高台や津波災害に対応した指定緊急避難場所などの安全な場所へ避難しましょう。

- 携帯電話やスマートフォン、ラジオなどを活用し、気象庁が発表する大津波警報や津波警報・注意報や、市町村が発令する避難指示といった津波に関する情報を入手しましょう。
- 津波は繰り返し来ます。第1波が小さくても後から来る波の方が大きい場合があります。いったん波が引いても大津波警報や津波警報、津波注意報が解除されるまで、海岸付近には絶対に戻ってはいけません。

#### 4 川べり

川からできるだけ遠ざかりましょう。

- 津波は川を遡ります。
- 流れに沿って上流に避難しても津波が追いかけてくるので、川からできるだけ遠ざかるようにしましょう。

#### 5 山・丘陵地

落石に注意し、急傾斜地など危険な場所から遠ざかりましょう。

- まず、落石から身を守りましょう。
- 山ざわや急傾斜地では、山崩れ、がけ崩れが起こりやすいので、すぐに離れましょう。
- 揺れが収まった後も、崩れやすくなっている可能性があります。近づかないようにしましょう。



#### 6 自動車の運転中

徐々にスピードを落として道路の左側に停車しましょう。

- 急ブレーキは禁物です。ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車しましょう。
- 停車後は慌てて車外に飛び出さず、携帯電話やスマートフォン、カーラジオなどで災害情報を収集しましょう。
- その場に自動車を置いて避難する場合は、緊急車両等の通行の妨げとなった際に速やかに移動させる必要があるため、車のキーはつけたままにし、ドアをロックしないで、避難しましょう。
- 高速道路の場合はハザードランプを点灯させましょう。なお、高速道路は1 kmごとに非常口が設けられており、ここから徒歩で地上に脱出できます。

#### 7 鉄道等の公共機関に乗車中

座席に座っている場合は頭部を守る姿勢をとり、立っている場合は転倒しないようにしましょう。停車後は乗務員の指示に従いましょう。

- 急停車する場合があるため、座席に座っている場合には、低い姿勢をとって頭部を鞆などで保護し、立っている場合には手すりやつり革をしっかりと握って転倒しないようにしましょう。
- 停車後は、乗務員の指示に従いましょう。
- 地下鉄の場合、高圧電線が線路脇に設置されていることがあるため、勝手に線路に飛び降りないようにしましょう。

# 令和6年度消防防災科学技術賞の作品募集

総務省消防庁 消防研究センター

消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学に関する論文及び原因調査に関する事例報告の分野において、優れた業績をあげた等の個人又は団体を消防庁長官が表彰することにより、消防防災科学技術の高度化と消防防災活動の活性化に資することを目的として、「令和6年度消防防災科学技術賞」の作品募集をいたします。皆様の一層のご応募をお待ちいたしております。

詳細は、消防研究センターホームページ(<https://nrifd.fdma.go.jp>)をご覧ください。

## 応募区分

### ■消防職員・消防団員等の部

- A. 消防防災機器等の開発・改良
- B. 消防防災科学論文
- C. 消防職員における原因調査事例

### ■一般の部

- D. 消防防災機器等の開発・改良
- E. 消防防災科学論文

**作品募集**  
令和6年4月1日(月) >> 4月22日(月)  
**消防防災科学技術賞**  
令和6年度

**募集区分**  
▼消防職員・消防団員等による応募  
A. 消防防災機器等の開発・改良  
B. 消防防災科学論文  
C. 消防職員における原因調査事例  
▼一般による応募  
D. 消防防災機器等の開発・改良  
E. 消防防災科学論文

**表彰**  
●優れた作品には、令和6年11月に行われる表彰式(東京都内にて開催予定)において消防庁長官より表彰状及び副賞を授与します。  
●1月頃に、応募作品の「概要」が消防研究センターホームページで公開されます。  
●受賞作品は、9月頃に決定・発表される予定です。

**締切情報**  
消防研究センター 研発企画課  
TEL:0422-44-8331 E-mail: hyosho\_nrifd@soimu.go.jp  
消防研究センターHP : <https://nrifd.fdma.go.jp/>

**令和5年度表彰作品**  
心臓動脈止血装置に対する  
手術支援装置及び  
UIによる救急現場における  
医師と看護師間の連携の研発  
ロボット  
ゲームエンジンを用いた  
VRによる消防訓練  
高度で安全な  
ガンタイプスルモ電機口の  
開発  
救急現場における  
患者搬送時の安全確保と  
効率化に関する研究

## 応募受付期間

令和6年4月1日(月)～4月22日(月) ※4月22日(月)の消印有効

## 表彰

優れた作品には、11月に行われる表彰式(東京都内)において、消防庁長官より表彰状及び副賞を授与します。

表彰件数は次のとおりです。

### ●優秀賞

#### ●消防職員・消防団員等の部

- A. 消防防災機器等の開発・改良 5件以内
- B. 消防防災科学論文 5件以内
- C. 消防職員における原因調査事例 10件以内

#### ●一般の部

- D. 消防防災機器等の開発・改良 5件以内
- E. 消防防災科学論文 5件以内

### ●奨励賞

消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例 3件以内

- ・6月頃に、応募作品の「概要」が消防研究センターホームページで公開されます。
- ・受賞作品は、9月頃に決定・発表される予定です。



## 「自分たちのまちは自分たちで守る、安全・安心の紀の川市を目指して」

和歌山県 紀の川市消防団

紀の川市は、平成17年に紀の川流域の5町が合併して誕生しました。和歌山県北部に位置し、北は大阪府、西は和歌山市に隣接し、人々が生活する上で利便性に富み、美しい自然環境、伝統ある歴史文化をはじめ、豊富な地域資源を有しています。

紀の川市は合併後、旧5町ごとに5つの消防団を設置し、それぞれ活動を行っていましたが、平成24年4月に「紀の川市消防団」として統合し、旧5町消防団を「方面隊」として位置付け開始しました。

その後、「女性分団」「学生分団」が結成され、現在では5方面隊・24分団・約1300名が活動しており、県内第2位の団員数を誇っております。

災害・火災発生時の出動だけでなく、消防署と連携した火災予防活動や防火警備警戒活動、また防災啓発活動など幅広い分野にて活動を行っています。

近年では、より災害時に役に立つ実践的な訓練を行っており、令和5年11月12日に実施した防災総合訓練では、市内指定避難所全52カ所への住民の避難誘導、そして無線による情報伝達訓練を行いました。今後発生する可能性が高いとされている南海トラフ大地震に備え、紀の川市消防団員が一丸となり「安全・安心の紀の川市」を目指して精進していきます。





うちの

# 名物団員



外ヶ浜町消防団 三厩第2分団 団員

工藤 幸治

外ヶ浜町消防団からは、三厩第2分団の工藤幸治団員を紹介します。

消防団員としては28年余りのベテランであり、平時は外ヶ浜町の観光拠点である青函トンネル記念館の館長を務めていらっしゃいます。青函トンネル記念館は、本州と北海道をつなぐ大事業である青函トンネルの着工から完成までの軌跡を、多種多様な資料を用いてご紹介する当町有数の観光施設です。また、工藤団員は町の教育委員としても活動されており、観光・防災・教育と様々な観点から地域の発展のためにご活躍されています。



青森県

利根町消防団 第1分団 分団長

鈴木 嘉祐

利根町消防団から第1分団の鈴木嘉祐分団長を紹介します。

鈴木さんは22歳から消防団に入団し、現在は、分団長として利根町の安心安全に日々尽力されています。普段は、「酒のたかつや」若旦那として日本酒などの販売をし、週末は居酒屋「蔵」のマスターとして働いています。アイドル好きな2児のパパですが、今後の利根町を担う男として活躍を期待しています。



茨城県



浜松市消防団からは、学生広報隊山口団員を紹介します。

学生広報隊は、学生目線での広報活動を行い、若者が継続的に消防団に対して興味を持てるコミュニティを構築することで、入団促進や組織の活性化を図り、地域防災力の向上に繋げることを目的に創設された部隊です。

山口団員は、学生広報隊の広告塔として校内で消防団員を増やすべく草の根運動を展開中です。「友達の友達は皆友達。友達から広げよう防災の輪。」



紀の川市消防団から那賀方面隊田口副隊長をご紹介します。

田口副隊長は44歳という若さでありながらも、熱心さを認められ、219名が所属する那賀方面隊の副隊長を任されています。自営かつ農場主ということもあり、災害現場出勤率ほぼ100%、到着も1番乗りで、現場指揮を的確に行ってくれています。

現場以外では、ホース巻取り器などの消防資機材をいくつも自作してくれたり、背負いかごの製作方法などの役立つ情報の共有をしてくれたりしています。

また、Googleマップに紀の川市全域3,000ヶ所以上の水利や94ヶ所のAED設置施設、その他水防施設等を入れ込んだマップを完成させ、迅速に消火活動を行えるようにしてくれました。

これからも、若き消防団エースの活躍に期待致します。



倉吉市消防団からは、関金第2分団の大田喜彦部長を紹介します。

大田部長は、入団23年のベテラン団員であり、操法大会では長年指揮者としてチームを県大会へ導いている実力者です。

普段は内装業者「インテリア大田」を営む傍ら、消防団活動にも精力的に参加。休日には趣味であるサーフィンやバイクを嗜み、鳥取の雄大な自然を満喫しておられます。

親しみやすい人柄で何事にも全力投球な大田部長は、消防団内のみでなく地域の方々からも信頼される存在です。



# 消防団の広場

## 栃木県「多年齢層のコミュニティの場として」

那須烏山市消防団  
団長

大橋 昭一



一級河川である那珂川水系を市東部に構える我が市、那須烏山市は人口2万数千人の栃木県では東部に位置する中山間地です。

当市は平成17年の旧烏山町・旧南那須町の合併により発足し、市街地や山間部等、あらゆる状況の災害への備えを必要とされ、水槽付ポンプ車や、消防団では珍しいA-1級ポンプ車を含め、43台の消防車両を備えています。

また、当市には、450年の歴史のあるユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の「山あげ祭」という、路上に移動式舞台を設置して歌舞伎を行う珍しい伝統行事があります。

私は、この祭を担う市内の若衆組織に携わった翌年の平成3年に、同じ若衆の仲間が多数入団していた消防団に入団しました。当時は災害と言えば火災対応が殆どであり、常備消防との連携はほぼ無く、いかに早く現場に到着し単独水利・放水をするのが当たり前の活動でした。

その後、平成27年に私が分団長になり、市内全地区の火災に携わるようになった頃、常備消防と連携した現場指揮隊の重要性を認識し、消防団

でも現場指揮本部が立ち上がりました。今では、火災の全体像や各隊の水利状況を把握できるようになったことに加え、資機材の的確配置も管理できるようになり、効率的かつ安全な消火作業が行われています。

一方で、近年では住宅環境の近代化が進むにつれて火災出動が減少する中、自然災害での出動が年々増加傾向にあります。多発化するゲリラ豪雨により、これまでは消防団にあまり必要とされていなかった火災以外での活動が増え、災害対応にも変化が見られてきています。

那須烏山市消防団ではこの様な災害に対応するべく、段階的に多種多様な勉強会を年数回行い、安全な消防活動を行う上で必要な知識を習得する試みを始めました。勉強会で知識を得ることにより、一歩踏み込んだ活動に進むことができるだけでなく、一般団員へも常備消防との連携の必要性の理解が進み、活動の効率も良くなってきていると感じます。

直近では、認知症サポーター養成講座を受講し、平時からの見守り等を行うことで災害対応に繋げる等、普段あまり意識しなかったことへの関心を高めることで、「市民の安心安全を守る」という、消防団の本来の目的に沿った活動の幅が広がっています。

日々変化する災害や那須烏山市消防団に求められる要望に対応し、今後も安全な消防活動を主に、多年齢層のコミュニティの場としても必要とされる消防団活動に、一致団結して取り組んで参ります。



消防署と連携した放水訓練



認知症サポーター養成講座

## 2023年度 全国統一防火標語

# 「火を消して 不安を消して つなぐ未来」

## 編集後記

連載企画「消防団加入促進への取組み」も3カ月目に入り、日本全国各地で行われている消防団員による様々な活動が写真を通して息遣いまで伝わってくるような連載になっています。取組み内容は、地域性が現れており、団員の皆さんが日々積み重ねている努力がひしひしと伝わってきます。

さて、桜のつばみもふくらみ、間もなく出会いと別れの季節がやってきます。昨年の4月から当誌の編集担当者として日本各地を訪れ、たくさんの方々と出会うことができました。地域により様々な文化・習慣や人柄が心に響く1年でした。カメラのファインダーを通して、人との交流は心に潤いを与えているのだと強く感じました。私が協会に在籍した2年間は人と会うことが躊躇われるコロナ禍の終息期になりましたが、やはり人々のコミュニケーションは心を持った人間ならではの特徴であると改めて実感できました。

私事になりますが、この3月をもちまして地元栃木のとある消防本部に帰任いたします。研修期間中には、令和3年度、令和4年度、令和5年度のそれぞれの研修生の皆さんに本当にお世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、本誌編集を通して多大なるご指導を頂きました各都道府県の消防協会の皆様、消防団の活動を一生懸命なさっている購読者の皆様に厚くお礼申し上げます。この研修派遣で学びました思い出深い経験を今後の消防人生に活かせるように引き続き精進していきたいと思います。本当にありがとうございました。(T.M)

当協会の令和6年度の各種事業計画や予算等も承認。新会館も、8月中旬の建設完了をにらんで、消防関係団体や飲食店舗などとの間で賃貸借契約を結んで入居いただく準備とともに、日本消防防災情報センターやニッショーホールも含めいよいよ管理運営に向け、様々なことを本格化させる段階に。新たな会館の管理規程の承認もいただき、しっかりと各種の準備を進めていくこととしています。

また、定例表彰式の後に、今回、「能登半島地震とコミュニティの役割」と題して発災後早々に現地入りされていた室嶋先生の講演会を実施(P29参照)。内陸地震としていかに最大級の前例のない地震であったか、また、輪島朝市の火災がなぜわずか1件の発生であっていったか、そしてそうした中で、消防団の果たした大きな役割についても丁寧にお話下さりとても充実した素晴らしい内容。当協会HPでも是非ご覧ください。

苦手な冬が過ぎ、桜の季節が待たれます。(Y.T)

## 購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,496円  
(問合せ先) 総務部企画担当 03-6263-9401

## 寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受け付けています。 [kikou@nissho.or.jp](mailto:kikou@nissho.or.jp)

月刊「日本消防」第七十七巻第三号  
令和六年三月五日印刷  
令和六年三月十日発行

編集人 田中 豊  
発行所 (公財)日本消防協会

東京都港区東新橋一丁目十九番  
電話 〇三(6263)九四〇一(代)

印刷所

東京都中央区銀座七丁目一六二二番  
株式会社アイネット  
電話 〇三(3549)五六〇〇

## 消防人の 火災共済

## 風水雪害等共済金

### 補償倍率UP

## 300倍から750倍へ

**消防団員  
消防職員  
なれどなたでも  
加入できます**

まさかの時お役に立ちます。

地震等災害見舞金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)  
火災共済金375万円のお支払い

# 1500倍補償

### B型火災共済

消防団  
消防本部

毎に皆で加入

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

落雷の損害  
にも対応!!

建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部（消防協会）へ。



ひまわりしているか  
ひのようじん

お支払  
対象

- 火災共済金 火災・落雷・爆発・破裂
- 風水雪害等共済金 風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等
- 地震等災害見舞金 地震・津波・噴火

**生活協同組合 全日本消防人共済会** TEL 03-6263-9822

詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

# 消防個人年金

積立金には予定利率（年1.25%）、配当率が適用されます。

老後生活に向けた  
計画的な財産形成  
が可能です。

月払の場合、  
毎月一万円（ゆうちょ  
銀行は五千円）から  
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、  
年金（6種類）又は  
一時金からご選択  
いただけます。

途中で脱退しても、  
積立金（脱退一時金）  
が受け取れます。

税制適格コースは  
個人年金保険料控除  
自由選択コースは  
一般の生命保険料控除  
の対象となります。

消防団員、消防職員  
の退団・退職後も  
継続できます。

（パンフレット・加入申込書のお取り寄せ、お問い合わせ先）

公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494 平日 9:00~17:00

お問い合わせ先

各市町村の消防事務担当者または消防本部消防団事務担当者、都道府県消防協会

（公財）日本消防協会

〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19

ヤクルト本社ビル内

TEL.(03)6263-9401（代表）

<https://www.nissho.or.jp>